

清水山古窯跡

(古窯址群)

(中世墓址群)

発掘調査報告書

1994年3月

中野市教育委員会

清水山古窯跡

(古窯址群)

(中世墓址群)

発掘調査報告書

1994年3月

中野市教育委員会

序

草間丘陵一帯に、古代の大窯業生産地が存在していたことは全国的に広く知られています。中野市はこうした古代の窯跡の保存と都市開発の調和に銳意努力しておりますが、近年の高速道建設に伴う周辺開発等によって、やむなく記録保存するケースが増加する傾向にあります。ここに、報告する清水山古窯跡もそのひとつであります。清水山古窯跡の保存については関係機関と慎重に協議を重ね、記録保存することとなりました。

今回の調査では須恵器窯が検出されるであろうと予想しておりましたが、中世の集団墓群が検出されるという思いがけない調査結果を得ることになりました。中野市には高梨氏館跡をはじめとして、多くの中世の遺跡が確認されており、当時の姿が偲ばれますが、今回の調査でまた新しい知見を加えたことになります。本報告書が活用され、郷土の歴史の新しい一頁を開き、市民の皆様の研究や郷土学習の一助になることを願ってやみません。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただいた関係諸機関、地元区民、調査団の皆様にあつく御礼申し上げます。

中野市教育委員会

凡　例

本書は長野県中野市立ヶ花清水山遺跡の縄文時代、奈良時代古窯址群、中世墓址群の報告書である。報告にあたっては、清水山の北斜面を清水山第1地点とし、南斜面を清水山第2地点とし、第1地点は古窯址群、第2地点は中世墓址群である。なお、第1地点は前年度長野県埋蔵文化財センターによって調査された清水山古窯址群の西側隣接地であり、第1号窯・第3号窯の灰原部分に当たる。

1. 遺跡所在地：長野県中野市大字立ヶ花字清水山657-1
2. 遺跡面積：2000m²　調査面積　2000m²
調査期間：清水山第1地点　1993年7月27日—1993年9月29日
清水山第2地点　1993年11月24日—1993年12月22日
3. 遺物整理・報告書作成期間：1993年9月30日—1993年11月23日、1993年12月23日—1994年3月31日
4. 調査主体：中野市教育委員会
5. 調査団組織：調査責任者　教育長小林治巳　調査団長　金井侃次
調査主任　中島英子　調査員　檀原長則　池田実男
事務局　教育次長　佐藤嘉市　社会教育課長　小古井嘉幸　社会教育課長補佐　山口耕一
学芸員　徳竹雅之
6. 調査協力：黒岩隆
発掘作業(第1地点)：秋山恒巳　池田きよ子　池田正子　池田幸男　今井侃　金井英男　小林綾　小林のぶえ　酒井今朝吉　実延章子　竹田保夫　竹内盛太郎　田中幸太郎　檀原みち江　出川信美　常田誠　中島宏　西山精治　宮本公司次　樋口義勝　樋口義政　山岸弘喜　湯本栄一　(学生)浦野貴光　小林茂樹　小林弘和　小林充　笠沢祐史　佐藤利也　関谷和人　鈴木隆信　鈴木貴　須藤エミ　高橋宏行　田中悟　吉永英明
(第2地点)：池田きよ子　池田正子　池田米夫　今井侃　小林綾　小林のぶえ　酒井今朝吉　実延章子　竹田保夫　檀原みち江　出川信美　中島宏　宮本公司次　樋口義勝　樋口義政　山岸弘喜　湯本栄一
7. 本報告の編集：中島英子
本報告の執筆：中島英子
調査協力・助言：千々和到　小山丈夫　垣内光次郎　芝田悟　水井久美男　湯本栄一　笠沢浩　関孝一　郷道哲章　土屋積　鶴田典昭　望月静夫　川村穂城　常盤井智行　長野県埋蔵文化財センター中野調査事務所　江里口省三　関武
遺物実測：小林綾　実延章子　竹田保夫　出川信美　中島宏　山岸弘喜　松野良子
拓本：宮本公司次　中島英子
トレス：山崎のり子　中島英子
整理作業：今井侃　小林綾　小林のぶえ　酒井今朝吉　実延章子　須田有子　竹内盛太郎　竹田保夫　田中幸太郎　出川信美　中島宏　山岸弘喜　山崎のり子　松野良子

目 次

序

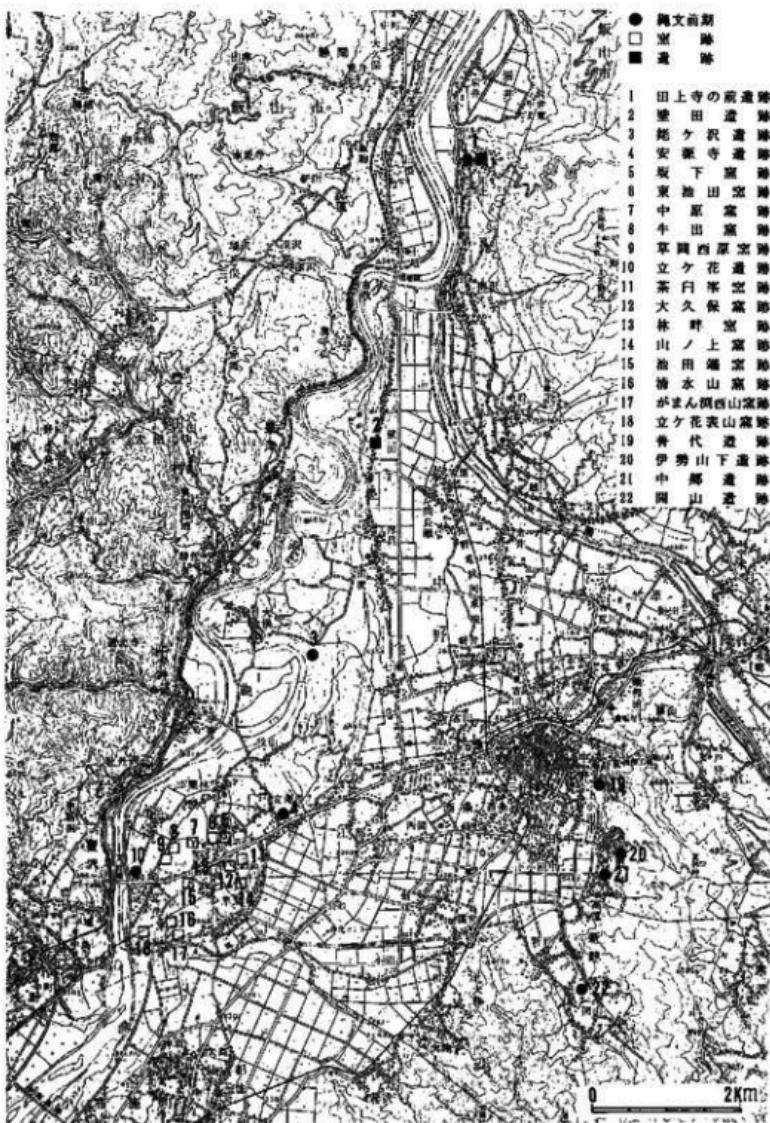
凡例

目次

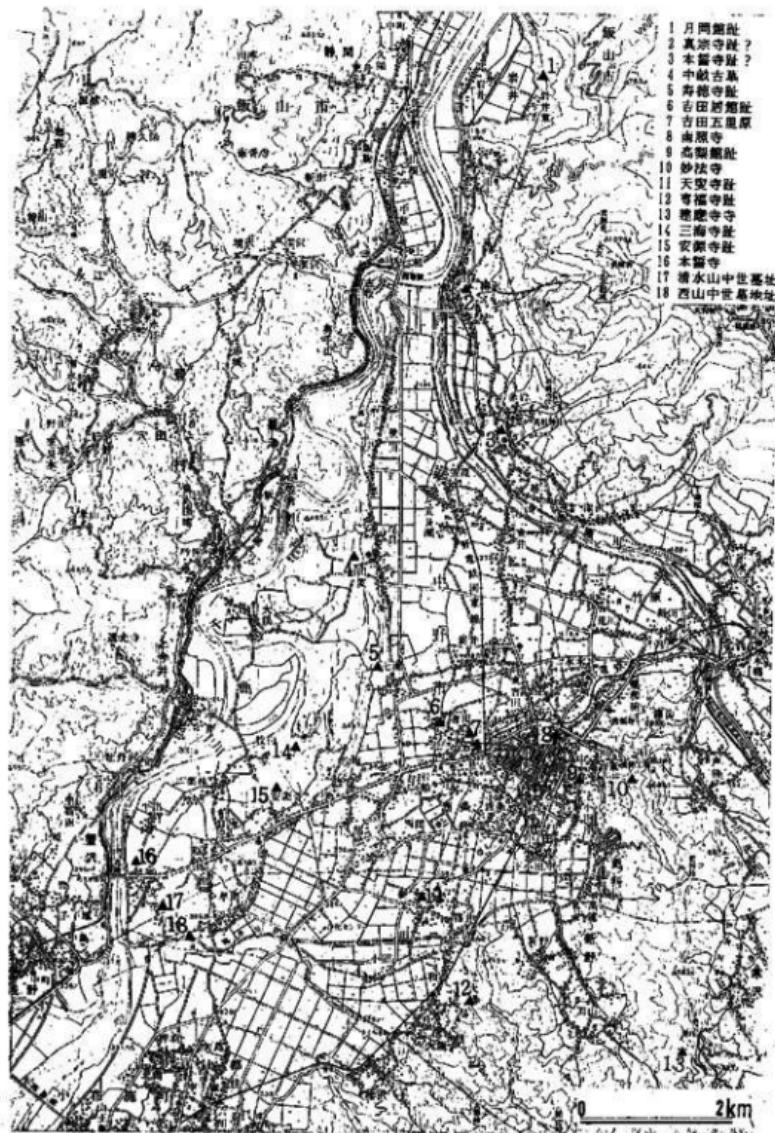
第1節 位置と地形	4	第4節 中世	17
1. 位置と地形	4	1. 遺構	20
2. 基本層序	4	2. 遺物	21
3. 周辺の遺跡	4	第5節 まとめ	44
4. 調査区	5	1. 繩文時代	44
第2節 繩文時代	5	2. 奈良時代	45
1. 遺構	5	3. 中世	56
2. 遺物	9	第6節 結語	57
第3節 奈良時代	14		
1. 遺構	14		
2. 遺物	16		
表目次			
第1表 須恵器属性 (1)	18	第2表 須恵器属性 (2)	19
第3表 須恵器属性 (3)	20	第4表 中世墓地群区域別表	33
第5表 火葬土塚属性	33	第6表 火葬骨埋設ピット表 (1)	34
第7表 火葬骨埋設ピット表 (2)	35	第8表 火葬骨埋設ピット表 (3)	36
第9表 中世墓地出土遺物属性 (1)	41	第10表 中世墓地出土遺物属性 (2)	42
第11表 古錢	45	第12表 鉄製品属性	45
第13表 五輪塔属性 (1)	52	第14表 五輪塔属性 (2)	53
第15表 五輪塔属性 (3)	54	第16表 五輪塔属性 (4)	55
図版目次			
第1図 繩文時代前期、古代関係遺跡	1	第2図 中世墓地関係遺物発見位置図	2
第3図 清水山遺跡調査区	3	第4図 第1地点全体図	6
第5図 第1地点遺構図 (1)	7	第6図 第1地点出土遺物 (1)	8
第7図 灰原位置図	10	第8図 灰原灰原土層図	11
第9図 第1地点出土遺物 (2)	12	第10図 第1地点出土遺物 (3)	13
第11図 第1地点出土遺物 (4)	14	第12図 第1地点出土遺物 (5)	15
第13図 第1地点出土遺物 (6)	16	第14図 第1地点出土遺物 (7)	17
第15図 第2地点遺構図 (1)	22	第16図 第2地点遺構図 (2)	23
第17図 第2地点遺構図 (3)	24	第18図 第2地点遺構図 (4)	25
第19図 第2地点遺構図 (5)	26	第20図 第2地点遺構図 (6)	27
第21図 第2地点遺構図 (7)	28	第22図 第2地点遺構図 (8)	29
第23図 第2地点遺構図 (9)	30	第24図 第2地点遺構図 (10)	31
第25図 第2地点遺構図 (11)	32	第26図 第2地点出土遺物 (1)	37
第27図 第2地点出土遺物 (2)	38	第28図 第2地点出土遺物 (3)	39
第29図 第2地点出土遺物 (4)	40	第30図 第2地点出土遺物 (5)	43
第31図 第2地点出土遺物 (6)	44	第32図 第2地点出土遺物 (7)	46
第33図 第2地点出土遺物 (8)	47	第34図 第2地点出土遺物 (9)	48
第35図 第2地点出土遺物 (10)	49	第36図 第2地点出土遺物 (11)	50
第37図 第2地点出土遺物 (12)	51		
付図 清水山第2地点全体図			

写真図版目次

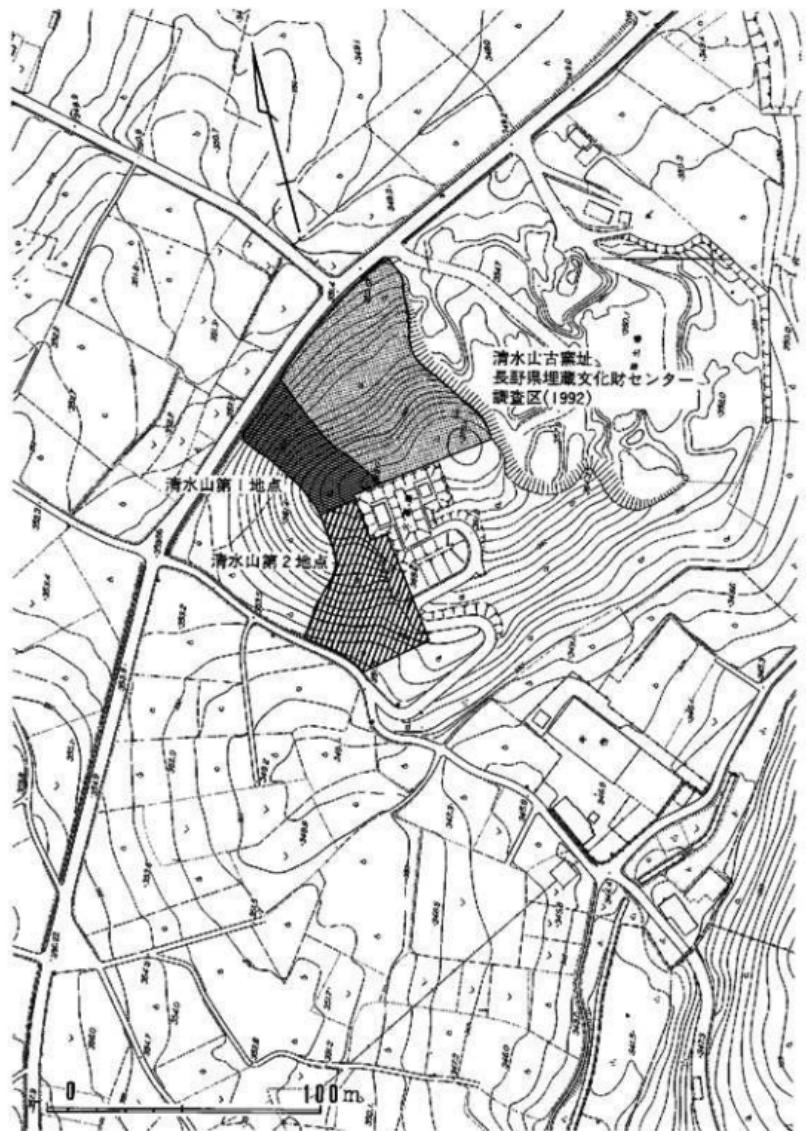
- P L 1 : 1. 清水山第1地点遠景 2. 清水山第1地点SK3断面 3. 清水山第1地点SK4断面
P L 2 : 1. 清水山第1地点SK4出土状況 2. 清水山第1地点D4灰原出土状況 3. 清水山第1地点通称すり鉢出土状況
P L 3 : 1. 清水山第2地点遠景 2. 清水山第2地点作業風景 3. 清水山第2地点第3区墓域出土状況
P L 4 : 1. 清水山第2地点第3区墓域下部施設 2. 清水山第2地点第7区墓域出土状況 3. 清水山第2地点第7区墓域SK5換出状況
P L 5 : 1. 清水山第2地点第5区墓域出土状況 2. 清水山第2地点斜面中段遺物出土状況 3. 清水山第2地点第16区墓域骨藏器出土状況
P L 6 : 1. 清水山第2地点第17区墓域骨藏器出土状況 2. 清水山第2地点第12区墓域出土状況 3. 清水山第2地点第15区墓域片口鉢出土状況
P L 7 : 1. 清水山第2地点第18区墓域出土状況 2. 清水山第2地点第18区墓域刃子、火葬骨出土状況 3. 清水山第2地点第9区墓域出土状況
P L 8 : 1. 清水山第2地点第25区墓域出土状況 2. 清水山第2地点第25区墓域板碑出土状況 3. 清水山第2地点第25区墓域板碑出土状況
P L 9 : 1. 清水山第2地点第25区墓域下部施設 2. 清水山第2地点上方第25区墓域下方第26区墓域骨藏器出土状況



第1図 中野市の縄文時代前期、古代關係遺跡



第2図 中世墓関係遺物発見位置図



第3図 清水山遺跡調査区

第1節 位置と地形

1 位置と地形（第1図・第2図）

長野県の善光寺平の最北端にあたる蛇行する千曲川に沿うように丘陵（長丘丘陵）が形成されている。

この丘陵は、豊野層（泥岩砂岩凝灰岩を含む）が規則正しく層理を形成している。この豊野層の摺曲や段丘によって小さな起伏や小さな谷が形成されている。特に豊野層の中でも立ヶ花の沢田鍋土・池田端、草間の丘陵、高丘の安源寺には良質の粘土層が堆積している。

清水山は、この長丘丘陵の南端部（立ヶ花地籍）上の小さな起伏のある地形に位置している。標高は約370mで比高差は17mである。

この丘陵上には、安源寺古窯址群、草間古窯址群、池田端古窯址等多くの窯跡が存在する。この丘陵は現在でも良質な粘土が採掘できることとして知られ、郷土玩具中野土人形の产地としても有名である。

2 基本層序

第I層 表土層。第II層 褐色土層（やや粘性を持つ）。中・近世層。第III層 暗褐色土層・繩文時代層。第IV層 黄褐色土層（粘土質層）。第V層 黄褐色砂礫層

3 周辺の遺跡（第1図・第2図）

A 繩文時代前期の遺跡（第1図）

中野市の遺跡は、繩文時代前期と中期の遺跡がよく発見される傾向にある。中野市東部（口野地区）の間山遺跡・裏の山遺跡では前期前半の土器が出土しており、中央部（中野地区）では普代遺跡で前期中半、姥ヶ沢遺跡では前半、西南部（高丘地区）では安源寺遺跡、立ヶ花遺跡では中半の土器が出土している。中野市の前期前半の土器は右尾式の土器が多く発見されている。

B 古代の遺跡（第1図）

立ヶ花の沢田鍋土遺跡や池田端遺跡において、古墳時代、あるいは奈良時代の粘土採掘坑（1993 長野県埋蔵文化財センター）が発見されている。沢田鍋土においては奈良時代の住居跡が発見されている（1993 中野市教育委員会）。池田端で奈良時代の須恵器窯跡と瓦窯跡が検出されている。沢田鍋土遺跡は清水山の南西側に当たり、池田端遺跡は清水山の北東側に位置する。1993年中野市教育委員会の調査では、草間がまん渕遺跡では奈良時代初期の窯跡が確認された。この他にも立ヶ花、安源寺、草間地区には多くの窯跡が確認されている。長丘高丘古窯址群とよばれるところである（1988 笠沢浩）。

立ヶ花表山窯跡群（平安？）、林畔窯跡・大久保窯跡群（奈良・平安）、茶臼峯窯跡群（奈良・平安）、上の山窯跡群（平安）、牛出窯址群（平安）、西原窯跡（平安）、安源寺窯跡群（古墳・奈

良)、中原窯跡、東池田窯跡、坂下窯跡等この長丘高丘古窯址群は2kmにわたる狭い範囲内において多くが発見されている。

この地域は千曲川の左岸に当たり水運の便に良い地区であり、良質な粘土の採取場であり、起伏に富んだ地形なため、窯を作るのに適しているものと思われる。このような適性条件のため須恵器の工人はこの地域を選択したものと思われる。

C 中世の遺跡(第2図)

中野市には多くの中世の遺跡が発見されている。高梨氏居館址、鴨ヶ嶽城跡等高梨氏に関係する遺跡。岩船氏居館址、大久保館跡(伝:草間氏)、牛出城跡(伝:高梨一族)等の中世の居館址が発見されている。立ヶ花、草間(伝草間氏)、安源寺(伝:高梨氏山城)、茶臼峯砦跡等の城跡も清水山周辺にはみられる。墓址関係の遺跡では、上小山田経塚、吉田宮脇遺跡(珠洲骨蔵器)、新井大ロフ遺跡(火葬墓6)、茶臼峯砦跡(火葬墓)、安源寺遺跡(火葬墓12、土壙墓1)、栗林遺跡(宝篋印塔、五輪塔)等がある。中世の寺関係の遺跡は、本誓寺、光海寺(五輪塔)、安源寺(宝篋印塔、五輪塔)、大徳寺(礎石)等がみられる。珠洲系陶器が出土する遺跡としては岩船居館址(甕)、吉田宮脇(骨蔵器)、棚塗遺跡(摺り鉢)などがある。

4 調査区(第3図)

清水山遺跡は今回の市の調査区を北斜面について第1地点、南斜面について第2地点とし、調査した。第1地点は前年度長野県埋蔵文化財センターが調査した奈良時代古窯址群の隣接地にあたるため、Y軸とX軸を同一方向軸の2m方形にグリッドを設定した。第2地点に関しては、斜面に合わせて2m方形にグリッドを設定した。

第2節 繩文時代

1 造構(第4図・第5図)

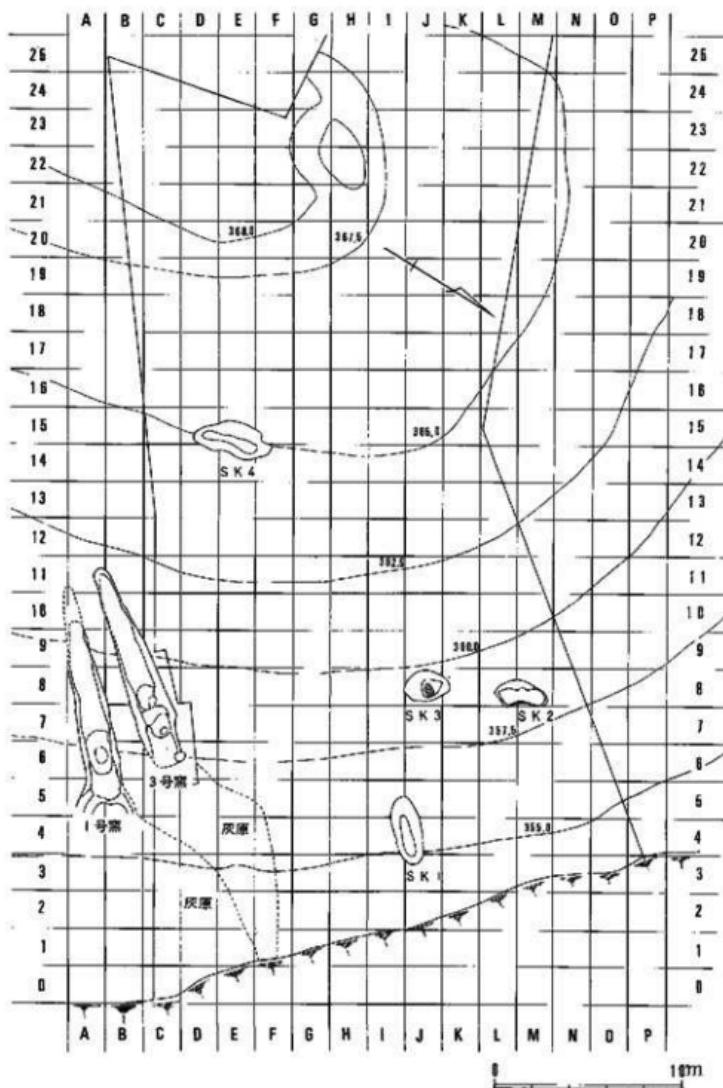
清水山遺跡において、4ヶ所の土壙を検出した。土壙記号はSKで表示した。

A SK1(第5図1)

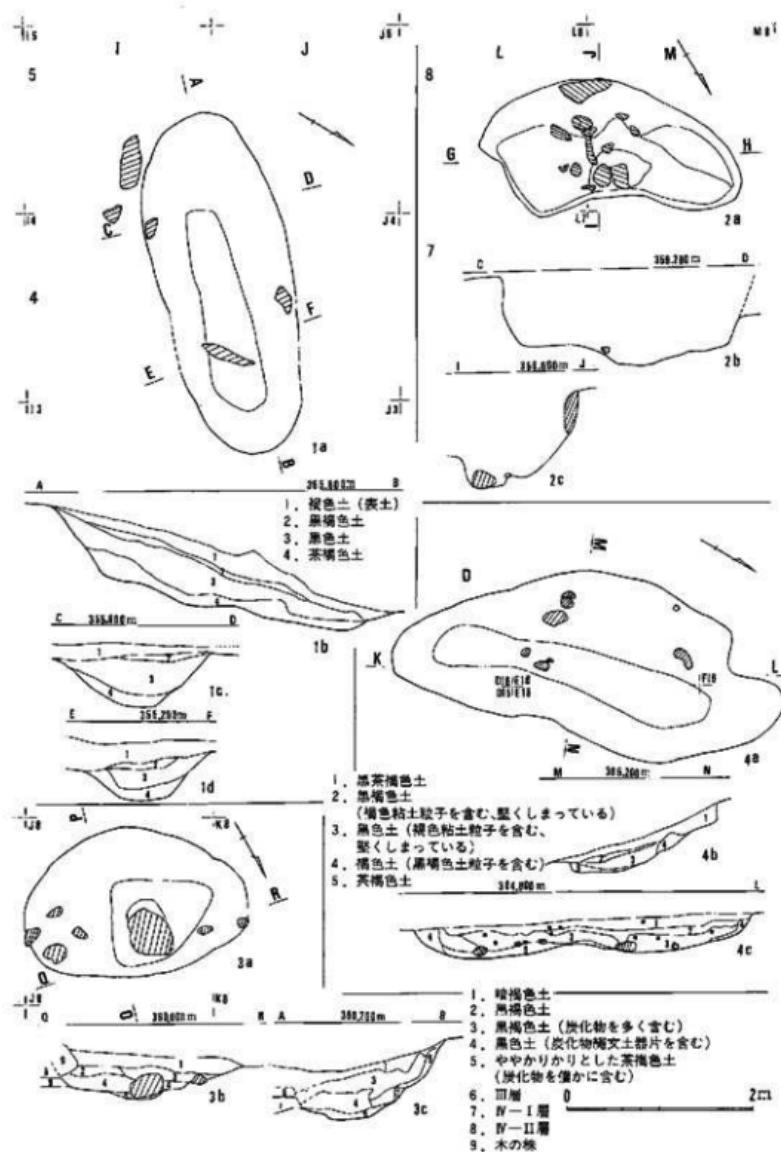
形状は細長い梢円形で、長軸1.35m、短軸0.75mで南北に長軸があたる。深さ0.7mであった。底面はやや凸凹していた。検出面は縄文時代層に当たるIII層(暗褐色土)中で、土壙中の遺物は検出されなかった。土壙の性格は不明である。

B SK2(第5図2)

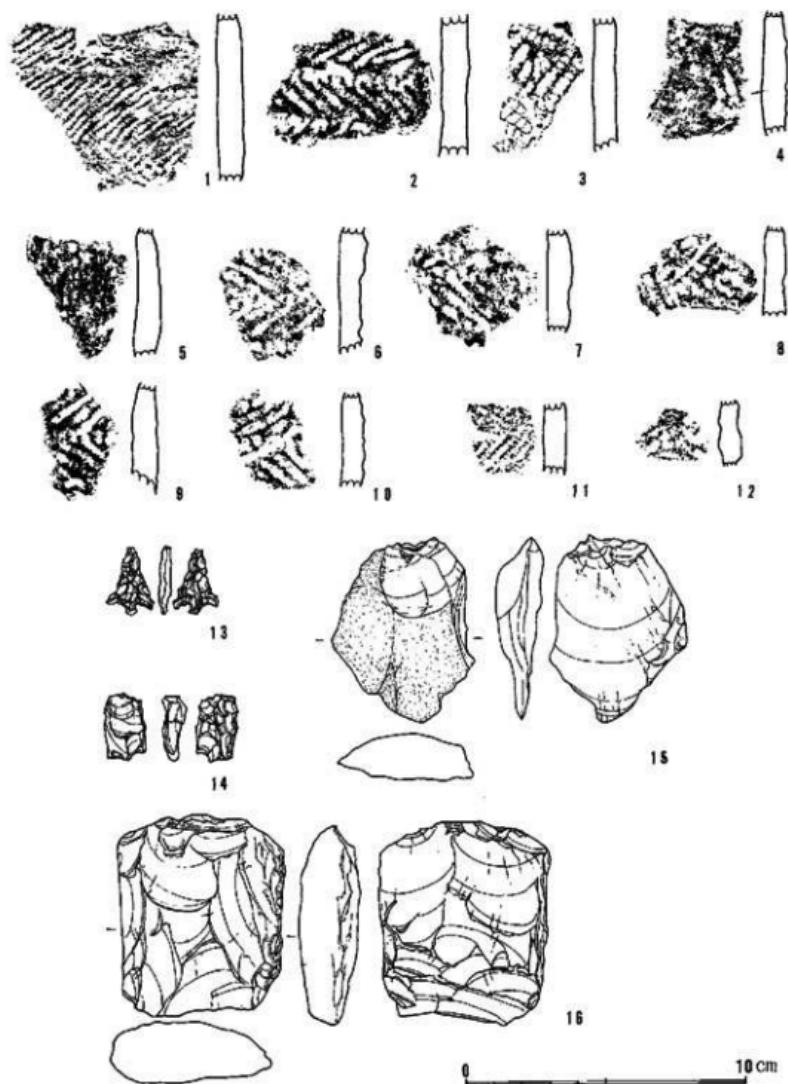
形状は不定形で、長軸0.65m、短軸1.4mで東西に長軸があたる。深さは0.5m、底面は凸凹しており、礎が底面に敷点みられた。検出面はIII層である。遺物は検出されなかった。性格不明の上層である。



第4図 清水山第1地点全体図



第5圖 清水山第1地点造構図(1)



第6図 清水山第1地点出土遺物(1) S = $\frac{1}{2}$

C SK 3 (第5図3)

形状は不定形で底面が若干掘り鉢形を成し、長軸1.2m、短軸0.8mで東西に長軸がある。深さは0.4m、底面に大きなボロボロになった焼け礫を配する。検出面はⅢ層であり、土壌上面と中下層面より小さなボロボロした縄文土器片を3片検出した。土壌中の覆土には炭化物粒子を多く検出した。底面や底面付近の壁面はやや赤化しており、短期間火を受けた様相を呈している。

D SK 4 (第5図4)

形状は不定形で長軸2.8m、短軸0.8mの東西に長い土壌である。深さ0.4~0.2mと浅く、検出面はⅢ層である。土壌覆土上部より下部にかけて小さな土器片が8点出土した。覆土中より炭化材や炭化物が多く検出された。土壌底面や壁面はやや赤化し、カリカリとした状態であった。SK 3同様、火を受けた様相を呈している。

SK 1、SK 2は遺構検出面が縄文時代期であったが、遺物の出土がなく、遺構の性格も不明である。

2 遺物 (第6図)

A 土器 (第6図1~12)

縄文時代の土器片は全点前期前葉のループ文・羽状縄文破片であった

第6図1~12はループ文・羽状縄文の土器片で、胎土に長石が多い。断面の芯は黒色の物が多く内外は赤褐色あるいは褐色である。土器片は非常に脆く文様も摩耗している物が多い。

B 石器 (第6図13~16)

石器は石鎌1点、不定形石器1点、剥片1点、打製石器1点、のほかSK 4中よりチップが数点出土している。

a 石鎌 (第6図13)

黒曜石製。長さ1.4cm、幅1.8cm、厚さ0.4cm。舌部を有する返しのある石鎌である。出土地は、4Eグリット内奈良時代廬跡の灰原下面に混入していた。

b 不定形石器 (第6図14)

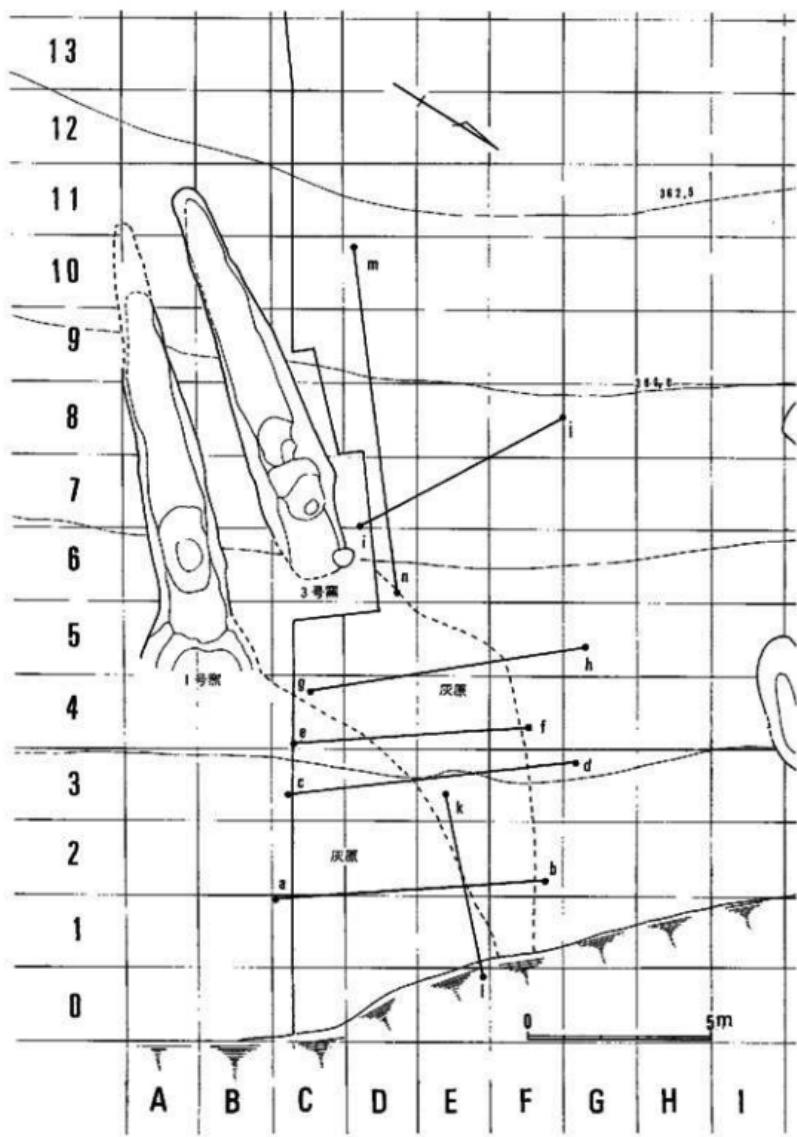
黒曜石製。長さ2.5cm、幅1.5cm、厚さ0.9cm。不定形の剥片の両側縁を折取り1側縁部に3回の剥離を加えている。出土地はSK 4の南西壁面付近の覆土中であり、SK 4中のループ・羽状文縄文土器片と伴出している。

c 剥片 (第6図15)

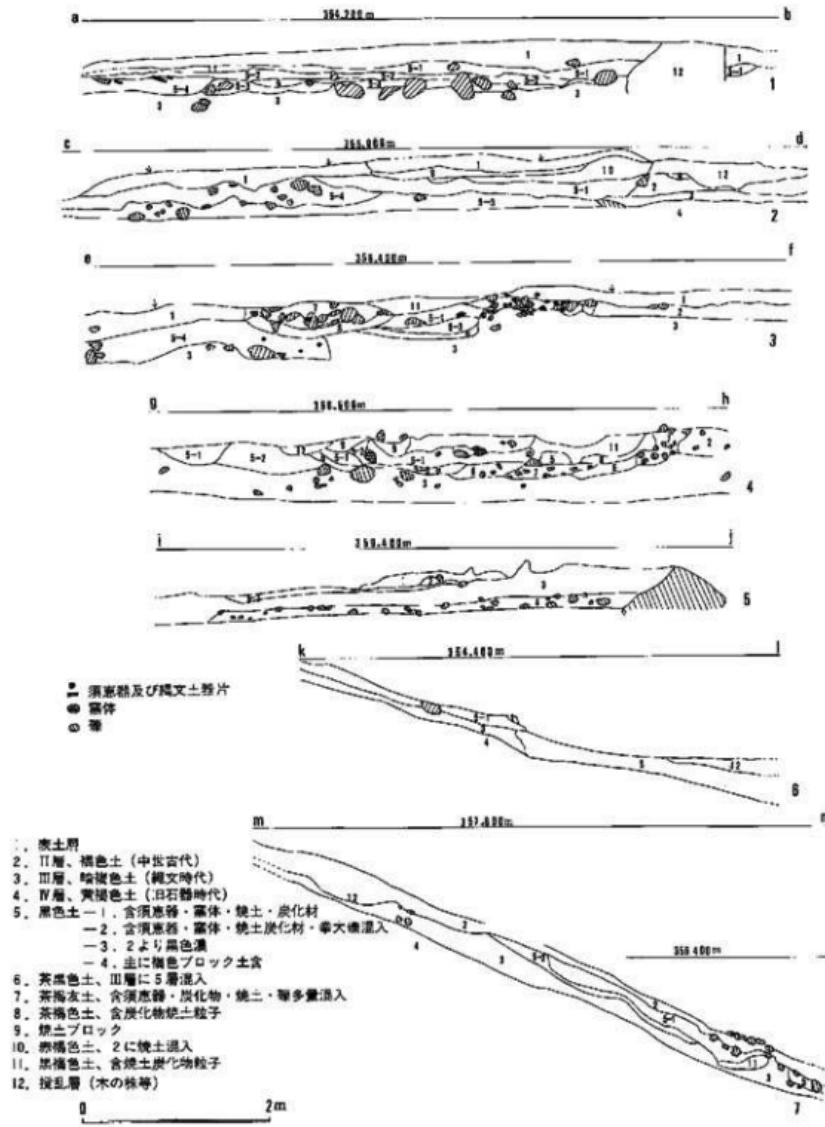
黒色の泥岩製。長さ6.5cm、幅5.2cm、厚さ0.7cm。正面に転石面を残す綫長の剥片である。打面部に正面より3回の剥離を加え打面を取り去っている。出土地は発掘区南西部の頂上部付近の表探品である。

d 打製石器 (第6図16)

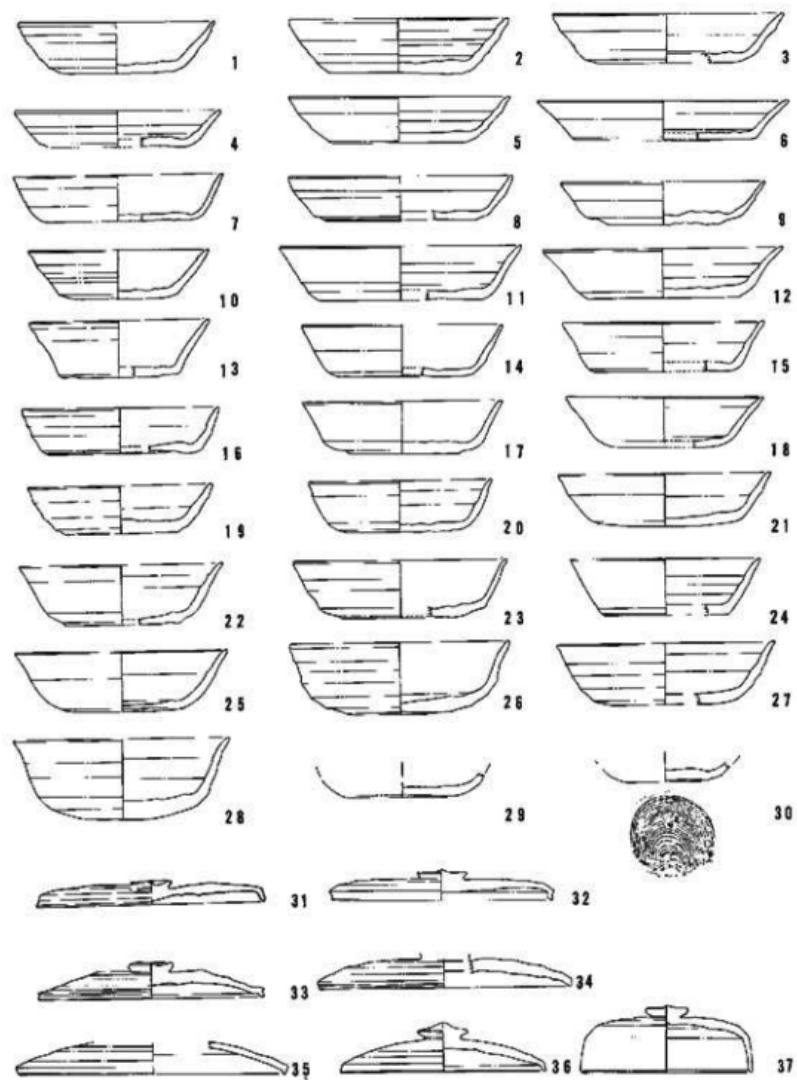
風化した泥岩製。長さ7.0cm、幅5.0cm、厚さ2.1cm。両面に剥離を加えた石器である。正面は



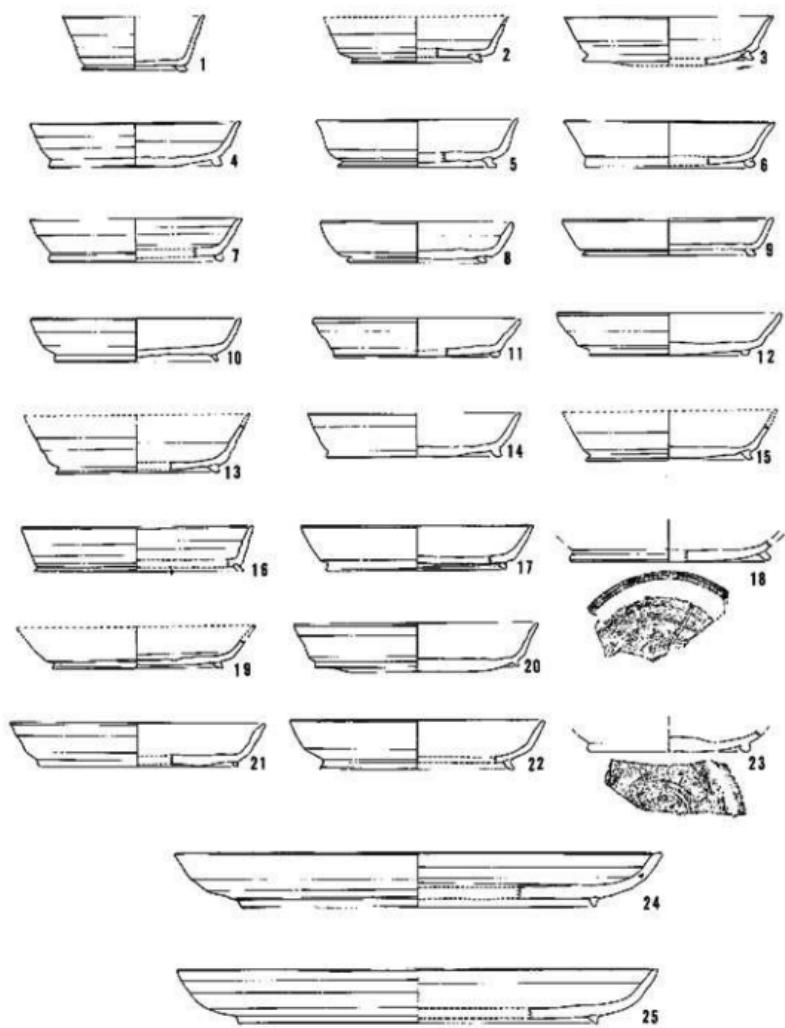
第7図 清水山灰原位置図 $S = \frac{1}{60}$



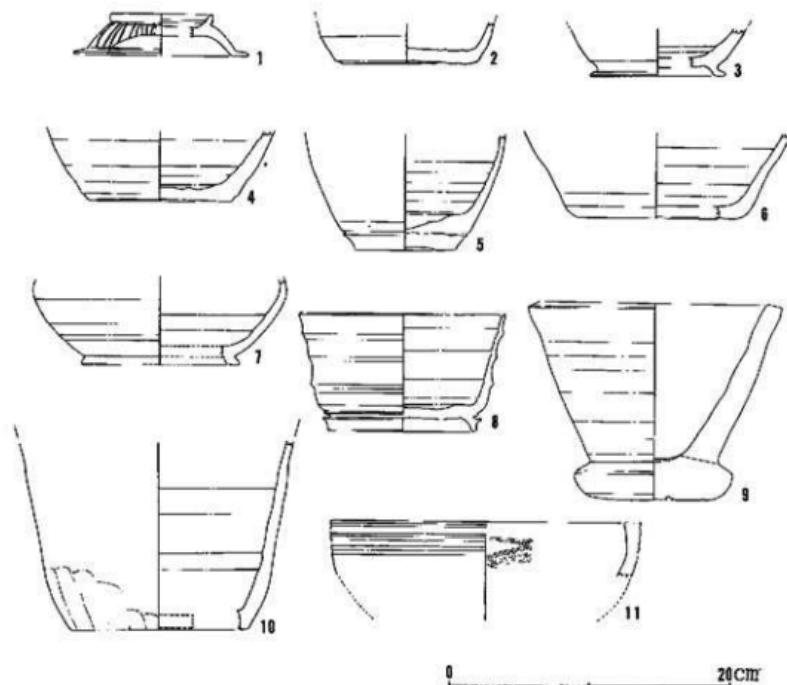
第8図 痛跡沃原上層図 S = $\frac{1}{50}$



第9図 清水山第1地点出土遺物(2) S- $\frac{1}{4}$



第10図 清水山第1地点出土遺物(3) S = $\frac{1}{4}$



第11図 清水山第1地点出土遺物(4) S=1/4

縁片より大きな剥離を加え、裏面は上部より大きな剥離を2度加え、下部は折取られている。側縁には打製石斧のような調整剥離を加えている。出土地は奈良時代窯跡灰原中に混入して発見された。

第3節 奈良時代

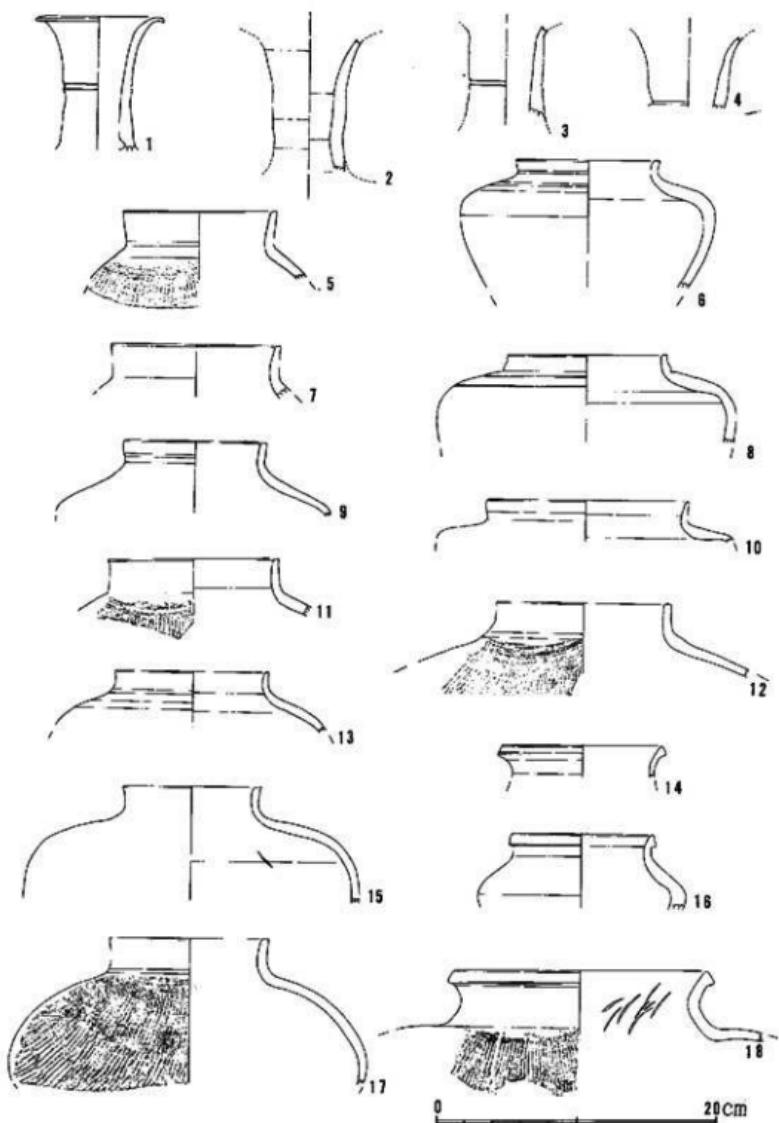
1 遺構 (第7図・第8図)

今回の調査では、前年度長野県埋蔵文化財センターが調査した奈良時代の窯跡 (1993 鶴田典昭他) の西側隣接地にあたり、第1号窯と第3号窯の灰原部分を調査した。

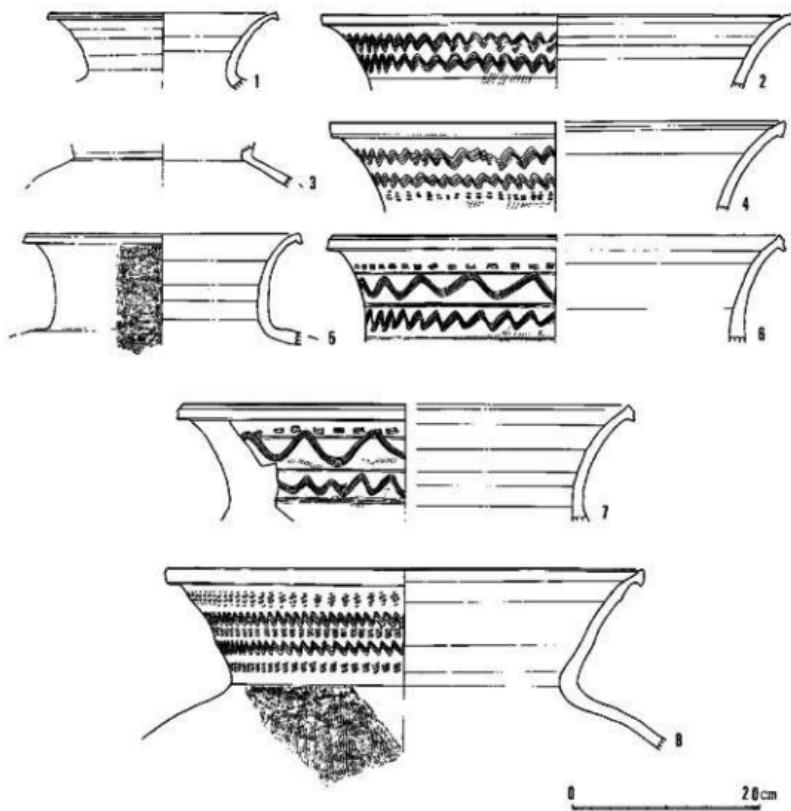
長野県埋文センターにおいて、清水山古窯址の調査本報告が出されていないため、第1号窯と第3号窯の概要を紹介しておく。

第1号窯

全長11.6m、最大幅2m。窯の構造は半地下式臺り窯。特徴は「高井」「佐政郡」の線刻文字



第12図 清水山第1地点出土遺物(5) S = $\frac{1}{4}$



第13図 清水山第1地点出土遺物(6) S=1/6

のある須恵器が出土した。

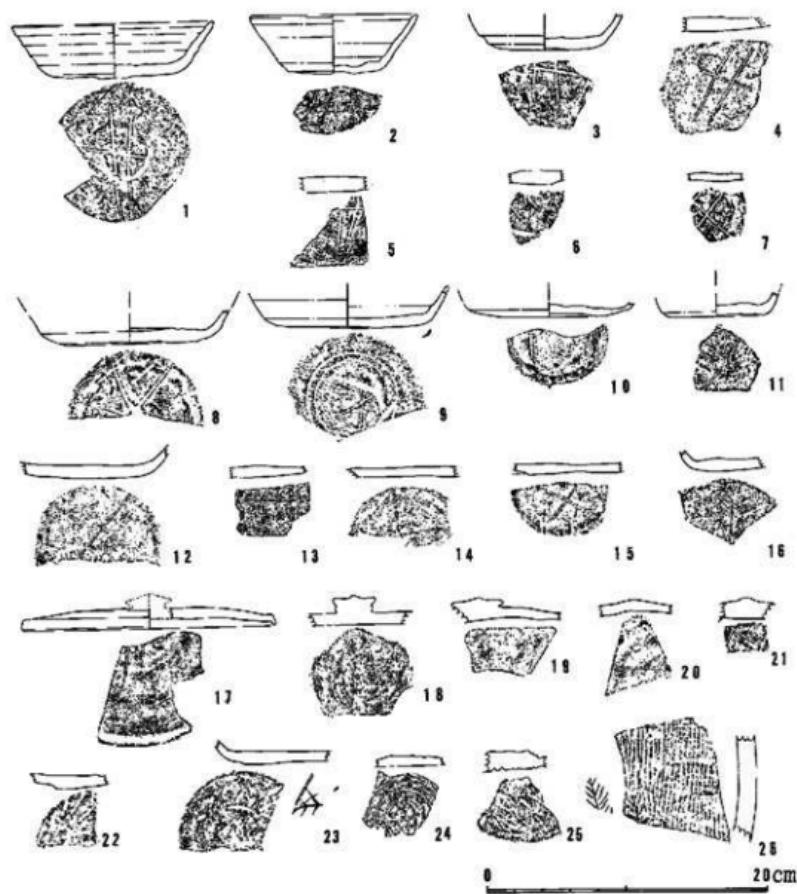
第3号窯

全長11.2m、最大幅2.1m。窯の構造は半地下式登り窯。

第1号窯と第3号窯の灰原部分に関して長野県埋文センターの清水山古窯址群の調査結果と共に分析を加えたいと思う。今回の調査結果は資料提示に止めるものとしたい。

2 遺物（第9図—第11図、第1表～第3表）

当調査区の遺物は、図化と遺物属性表の提示に止めた。



第14図 清水山第1地点出土遺物(7) S- $\frac{1}{4}$

第4節 中世

清水山の南から南西方向斜面の第2地点より中世の五輪塔群を含む墓地群が発見された。

調査では、五輪塔が表土30cmを削した（第II層）時点より発見され、植林された木の根に挟まれる状態でも検出された。

調査区東側は火薬庫のため山が削られており、火薬庫という特殊な施設のため火薬庫の周囲を整地した後防御壁を築くのにあたり盛り土がされていた。またこの火薬の運搬道路が東斜面より

図版番号	登録番号	グリット	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調 整	特 徴	備考
9-1	84	C4	杯A	13.8	6.0	3.6	底: ヘラ切り後ナデ		
9-2	70	C4	杯A	15.6	9.0	4.0	底: ヘラ切り後ナデ		
9-3	125	D4	杯A	16.3	9.6	3.5	底: ヘラ切り後ナデ		
9-4	80	C2-E2	杯A	14.4	14.4	3.1	底: ヘラ切り後ナデ		
9-5	46	D4	杯A	15.7	9.6	3.4	底: ヘラ切り後ナデ		
9-6	33	C2-K2	杯A	17.9	12.9	2.7	底: ヘラ切り後ナデ		
9-7	73	C4	杯A	13.8	10.0	3.3	底: ヘラ切り後ナデ		
9-8	76	F4	杯A	15.8	10.8	3.2	底: ヘラ切り後ナデ		
9-9	8	C3	杯A	14.3	7.8	3.1	底: ヘラ切り後ナデ		
9-10	124	G4	杯A	12.5	5.8	3.4	底: ヘラ切り後ナデ		
9-11	74	B4	杯A	16.5	11.2	3.9	底: ヘラ切り後ナデ		
9-12	55	表抜	杯A	17.0	11.2	3.5	底: ヘラ切り後ナデ		
9-13	121	C4	杯A	12.7	5.5	4.0	底: ヘラ切り後ナデ		
9-14	18	D4	杯A	13.9	9.0	5.7	底: ヘラ切り後ナデ		
9-15	15	C3	杯A	14.1	9.6	3.5	底: ヘラ切り後ナデ		
9-16	121	C4	杯A	12.7	5.5	4.0	底: ヘラ切り未調整		
9-17	8	C3	杯A	14.3	7.8	3.1	底: ヘラ切り後ナデ		
9-18	10	C4-G4	杯A	13.8	5.8	底: ヘラ切り後ナデ			
9-19	122	E1	杯A	13.1	8.2	3.4	底: ヘラ切り後ナデ		
9-20	11	C3	杯A	12.9	6.4	3.6	底: ヘラ切り後ナデ		
9-21	53	D4	杯A	15.2	4.4	3.8	底: ヘラ切り後ナデ		
9-22	90	E5	杯A	14.5	8.2	4.2	底: ヘラ切り後ナデ		
9-23	16	C3	杯A	15.0	9.0	4.1	底: ヘラ切り後ナデ		
9-24	123	D4	杯A	13.4	8.8	4.0	底: ヘラ切り後ナデ		
9-25	20	D4	杯A	15.0	8.7	4.2	底: ヘラ切り後ナデ		
9-26	82	C4	杯A	15.4	6.4	5.1	底: ヘラ切り未調整		
9-27	126	E4	杯A	15.5	7.3	4.4	底: ヘラ切り後ナデ		
9-28	52	D4	杯A	15.3	4.2	5.7	底: ヘラ切り後ナデ		
9-29	9	D3	杯A		8.2		底: ヘラ切り後ナデ		
9-30	32	C5	杯A		6.1		圓軸系切り未調整		
9-31	49	C4	杯蓋	16.2		2.1	体: 一部回軸ヘラケズリ		
9-32	50	C4	杯蓋	15.9		2.2	体: 一部回軸ヘラケズリ		
9-33	92	C3	杯蓋	16.0		2.5	体: 一部回軸ヘラケズリ		
9-34	89	D4	杯蓋	18.0			体: 一部回軸ヘラケズリ		
9-35	87	D4	杯蓋	18.8			体: 一部回軸ヘラケズリ		
9-36	51	D5	杯蓋	14.6		3.5	体: 一部回軸ヘラケズリ		
9-37	57	C4	表蓋	11.7		4.7	体: 一部回軸ヘラケズリ		
10-1	23	C2	杯B	10.1	7.4	3.9	底: 回軸ヘラケズリ		
10-2	26	D4	杯B	12.7	9.3		底: 回軸ヘラケズリ		
10-3	29	C4	杯B	14.7	11.5	3.1	底: 回軸ヘラケズリ		
10-4	19	E5	杯B	14.8	11.8	3.2	底: 回軸ヘラケズリ		
10-5	24	C4	杯B	14.3	11.2	3.4	底: 回軸ヘラケズリ		
10-6	5	E4	杯B	14.6	11.6	3.3	底: 回軸ヘラケズリ		
10-7	6	E5	杯B	14.8	12.2	3.1	底: 回軸ヘラケズリ		
10-8	72	E4	杯B	13.4	9.2	3.6	底: 回軸ヘラケズリ		
10-9	22	C3	杯B	15.1	12.4	3.1	底: 回軸ヘラケズリ		
10-10	4	C4	杯B	14.8	11.3	3.1	底: 回軸ヘラケズリ		
10-11	1	D4	杯B	14.6	11.5	2.8	底: 回軸ヘラケズリ		
10-12	2	D4-E4	杯B	15.4	10.7	3.0	底: 回軸ヘラケズリ		
10-13	31	E5	杯B	15.2	11.6		底: 回軸ヘラケズリ		
10-14	19	C3,C2	杯B	14.8	11.8	3.2	底: 回軸ヘラケズリ		
10-15	34	D4	杯B	15.0	11.8		底: 回軸ヘラケズリ		
10-16	40	D4	杯B	16.6	14.8	3.2	底: 回軸ヘラケズリ		

第1表 積憲器属性(1) (杯Aは無台杯、杯Bは高台付杯)

回版番号	登録番号	グリット	器種	口径(cm)	直徑(cm)	高さ(cm)	開鑿	特徴	備考
10-17	44	C3	杯B	15.8	12.7	3.1	底:回転ヘラケズリ		
10-18	12	D4	杯B		14.2		底:回転ヘラケズリ	底部外周ヘラ括き記号	
10-19	35	C4	杯B	15.4	12.1		底:回転ヘラケズリ		
10-20	13	C3	杯B	17.2	14.5	3.4	底:回転ヘラケズリ		
10-21	3	C3,E3	杯B	17.7	14.1	3.1	底:回転ヘラケズリ		
10-22	37	C4	杯B	18.1	13.8	3.5	底:回転ヘラケズリ		
10-23	43	C6	杯B		11.2		底:回転ヘラケズリ	底部外周ヘラ括き記号	
10-24	42	D4	盤	34.8	25.2	3.8	底:回転ヘラケズリ		
10-25	45	C4	盤	34.3	25.7	3.9	底:回転ヘラケズリ		
11-1	36	C4-D4	硯	7.0	12.4	3.0	全体ナナメ調整		
11-2	117	D3	瓶底部		9.0		底:ヘラケズリ		
11-3	120	H2	瓶底部		9.5				
11-4	59	D9	瓶底部		10.2		底:回転ヘラケズリ		
11-5	67	C2	瓶底部		7.2		底:回転ヘラケズリ		
11-6	69	C1-G1	瓶底部		12.0		底:回転ヘラケズリ		
11-7	48	C3	瓶底部		11.0		底:回転ヘラケズリ		
11-8	21	C1	瓶	14.7	10.4	8.4	底部ナナメ調整	金属留置做	通称抄録理塊
11-9	25	C3	瓶	16.0	7.0	14.0	内:ガラガラ	底:小凹部数ヶ所あり	通称割り鉢
11-10	71	C2,C3-E3	瓶		11.4	13.3	体:下ヘラケズリ 底:ヘラケズリ		孔4カ所
11-11	38	C1-G1	鉢	19.6			II線下内面ヘラ調整		
12-1	27	D9	長原壺	8.0				頸部沈線1条あり	
12-2	28	D9	長原壺						
12-3	30	C6	長原壺					頸部沈線1条あり	
12-4	39	E4	長原壺					頸部沈線1条あり	
12-5	75	C6	短原壺	10.9			体:タタキ		
12-6	61	C25	短原壺	9.7					
12-7	77	C6	短原壺	12.0					
12-8	63	C3,B4,D4	短原壺	11.3					
12-9	78	C5-D6	短原壺	10.2					
12-10	64	C1 E1	短原壺	14.2					
12-11	79	D6	短原壺	12.1			体:タタキ		
12-12	58	D2	短原壺	12.6			体:タタキ		
12-13	66	C6	短原壺	10.9					
12-14	65		短原壺	11.3					
12-15	62	D3,C4	短原壺	9.8					
12-16	85	E4	短原壺	9.9					
12-17	54	D1	短原壺	20.0			体:タタキ		
12-18	56	C2	短原壺	20.0			体:タタキ		
13-1	83	C1	壺	24.0			頸部タタキ後スリケシ		
13-2	162	D4 D5	壺	50.0			頸部タタキ後スリケシ	新部捲括き波状文	
13-3	81		壺				頸部タタキ後スリケシ		
13-4	163	D4-E4,C2	壺	46.6			頸部タタキ後スリケシ	頸部捲括き波状文	
13-5	60	D9	壺	47.2			頸部タタキ後スリケシ		
13-6	165	C4,C5,D4	壺	47.0			頸部タタキ後スリケシ	頸部捲括き波状文	
13-7	164	C5,C3	壺	47.2			頸部タタキ後スリケシ	頸部捲括き波状文	
13-8	119	C4	壺	50.2			頸部タタキ後スリケシ	頸部捲括き波状文	
14-1	99	D4	杯A	14.3	9.2	3.9		底部ヘラ括き記号	
14-2	91	C2	杯A	11.8	3.0	4.2		底部ヘラ括き記号	
14-3	97	E4	杯A		4.6			底部ヘラ括き記号	
14-4	86	C5-D5	杯A					底部ヘラ括き記号	
14-5	95	C4	杯A					底部ヘラ括き記号	
14-6	100	D1	杯A					底部ヘラ括き記号	

第2表 積石器属性(2)

図版番号	登録番号	グリット	器種	口径(cm)	表深(cm)	器高(cm)	開 窓	特 故	備 考
14-7	94	C3-E3	杯A		9.2			底部へラ抜き記号	
14-8	101	F5-D3	杯A		6.0			底部へラ抜き記号	
14-9	88	C2	杯A		6.8			底部へラ抜き記号	
14-10	7	C4	杯A		6.6			底部へラ抜き記号	
14-11	68	D4	杯A					底部へラ抜き記号	
14-12	118	E4	杯A					底部へラ抜き記号	
14-13	93	C3	杯A					底部へラ抜き記号	
14-14	116	C2	杯A					底部へラ抜き記号	
14-15	109	D3	杯A					底部へラ抜き記号	
14-16	115	E4	杯A					底部へラ抜き記号	
14-17	17	D3	杯蓋					天井部内面へラ抜き記号	
14-18	108		杯蓋	18.0		2.0		大井部内面へラ抜き記号	
14-19	107	C3	杯蓋					天井部内面へラ抜き記号	
14-20	106	E4	杯蓋					天井部内面へラ抜き記号	
14-21	96	E4	杯蓋					天井部内面へラ抜き記号	
14-22	113	D3-E3	杯A					底部へラ抜き文様	
14-23	114	C4	杯A					底部木葉紋	
14-24	98	D4	杯A?					底部へラ抜き記号	
14-25	41	C1-G1	鉢					底部	通称壇り鉢
14-26	110	C4	蓋				体:タタキ	側部文様	

第3表 須恵器属性(3)

南斜面にかけて通っておりその箇所は削平されていた。

西側は葡萄畑にあたり今回の調査範囲からは外れている。境界部付近に葡萄畑が広がっているため、根を切ることでできないため境界部より3m以上内側の調査対象範囲となった。

1 造構 (付図、第4~8表)

第2地点は清水山の南斜面にあたる。集石や五輪塔が中腹上部より中腹下部にわたって集中していた。この斜面は植林されたり火薬庫関係施設のため上面が削平されていたり、中腹部より下部は斜面がやや急であり地滑りしている部分が多く、多くの礫や五輪塔は除去されてしまったものと思われる。

造構は次のように分類される。(第4表〈特徵〉の項)

- A 地輪のみがあるタイプ: 第2区
- B 地輪を配石が閉むタイプ: 第1・3・4区
- C 配石や集石で方形のマルンドを構築し地輪が伴うタイプ: 第5・6~13・15~20・24~26区
- D 方形あるいは円形の配石や集石でマウンドを構築しているタイプ: 第21~23区
- E 方形の配石があるタイプ: 第14区
- F その他: 第4・27区 (第16図1・2)

各タイプの造構の下部は次のように分類される。

- ア 火葬骨ピットの伴うタイプ：第1・3～22、24～25区
 - イ 火葬骨上臍の伴うタイプ：第6・7・14・15・17・18・19・20・24・25区
 - ウ 火葬土壙の伴うタイプ：第3・4・5・10・13・17・18・19・23・24・25区
 - エ 下部施設のないタイプ：第2区
- これらの下部施設はアとイ、アとウといったように2タイプ3タイプを持ち合わせるものもある。

2 遺物

中世墓並群に関係する施設に伴う珠洲系陶器（骨蔵器）、須恵器片、青磁片、古瀬戸片、カワラケ、板磚、古錢、釘、五輪塔が出土した。

A 珠洲系陶器（第26・27図、第9表）

a 壺A・B（第26図1・2・4）

小型の壺である。紐鍵盤成形による「R種」（小壺類）である（1989 吉岡康暢）。

壺A（第26図1・4）は素文長調壺（R種C類）、壺B（第26図2）は櫛目波状文長調壺（R種B類）にあたる。壺Aの4は肩がやや上部に張っているため珠洲系陶器編年図によるIII期ぐらいに相当し、2・3は4より肩の張りがやや球形になっており、IIIからIV期に相当するものと思われる。

b 壺C（第27図）

中形の壺である。いわゆる紐叩打成形による「T種」である。2・3は稜杉状のタタキメで縫形である。2は押花文が頸部直下にみられ、1は馬蹄形の押印文がみられる。これら押印文は類似するものは珠洲系陶器にはみられるが、同類のものは見受けられない。

珠洲系陶器編年図によると2・3はIII期前後、1はIV期からV期ぐらいに相当するであろうか。

c 片口鉢（第26図3）

無文であり非常に焼きが粗雑である。巻き上げ部分がはげ落ちている。珠洲系陶器編年III期に相当すると思われる。

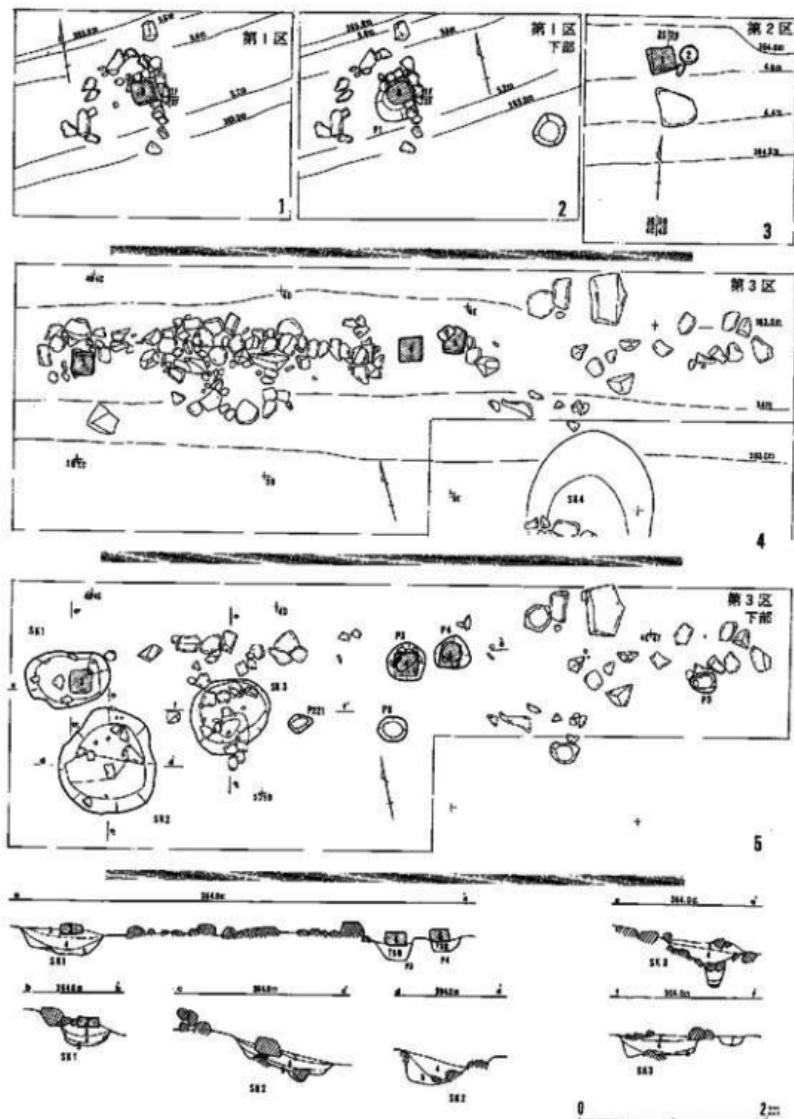
d 片口搦り鉢（第26図5）

卸目が細く、やや幅広い原体で施している。形態は体部が直線的に開く。珠洲系陶器編年IV期ぐらいに相当すると思われる。

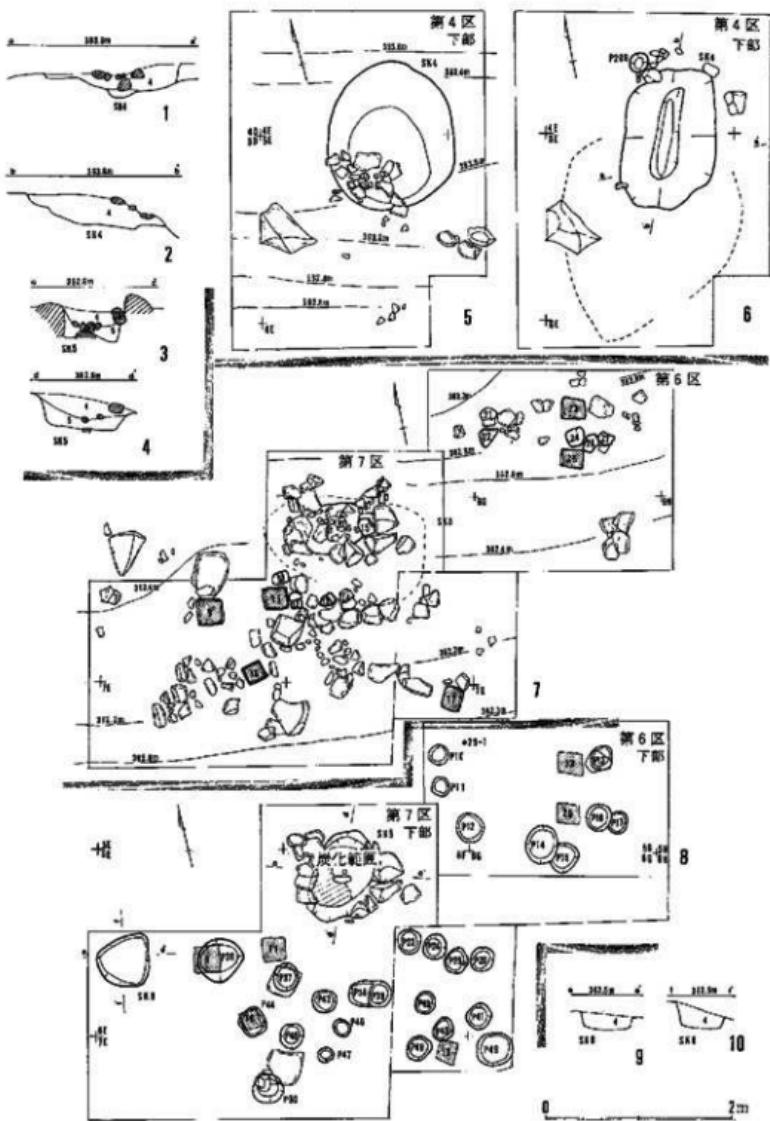
e 捶り鉢（第26図6・7）

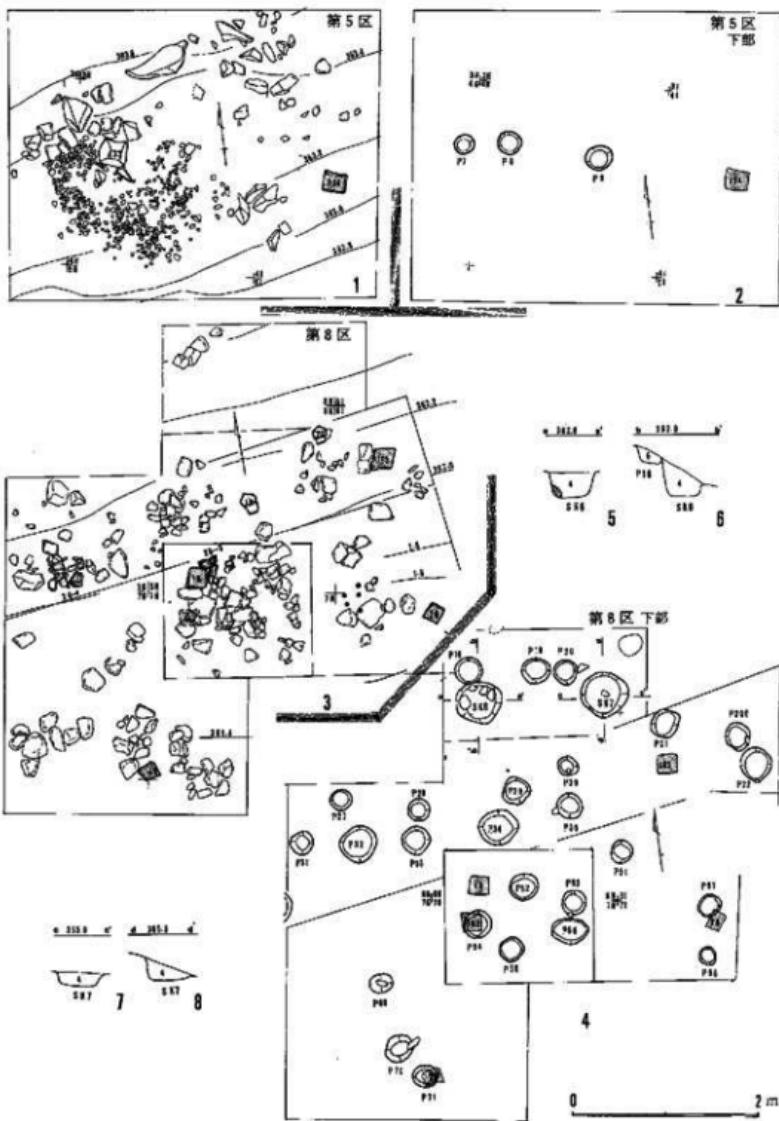
6は口唇端部内側がやや円みを持つ。卸目は細くやや幅広の原体である。形態は直線的に開く。5と類似する時期のものと思われる。

7は器体は直線的に開き、口唇端部に広く面を取り櫛目波状帶を巡らせている。珠洲系陶器編年IV期に相当するものと思われる。

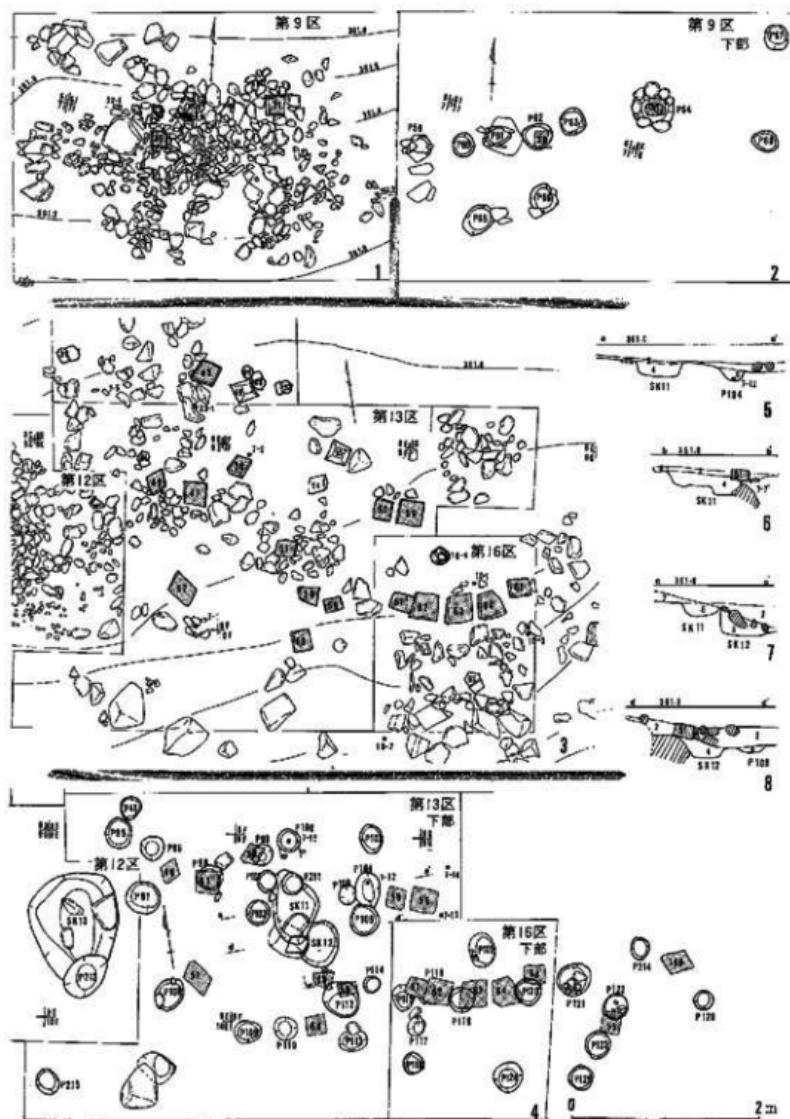


第15圖 清水山第2地点遺構図(1) S = $\frac{1}{50}$

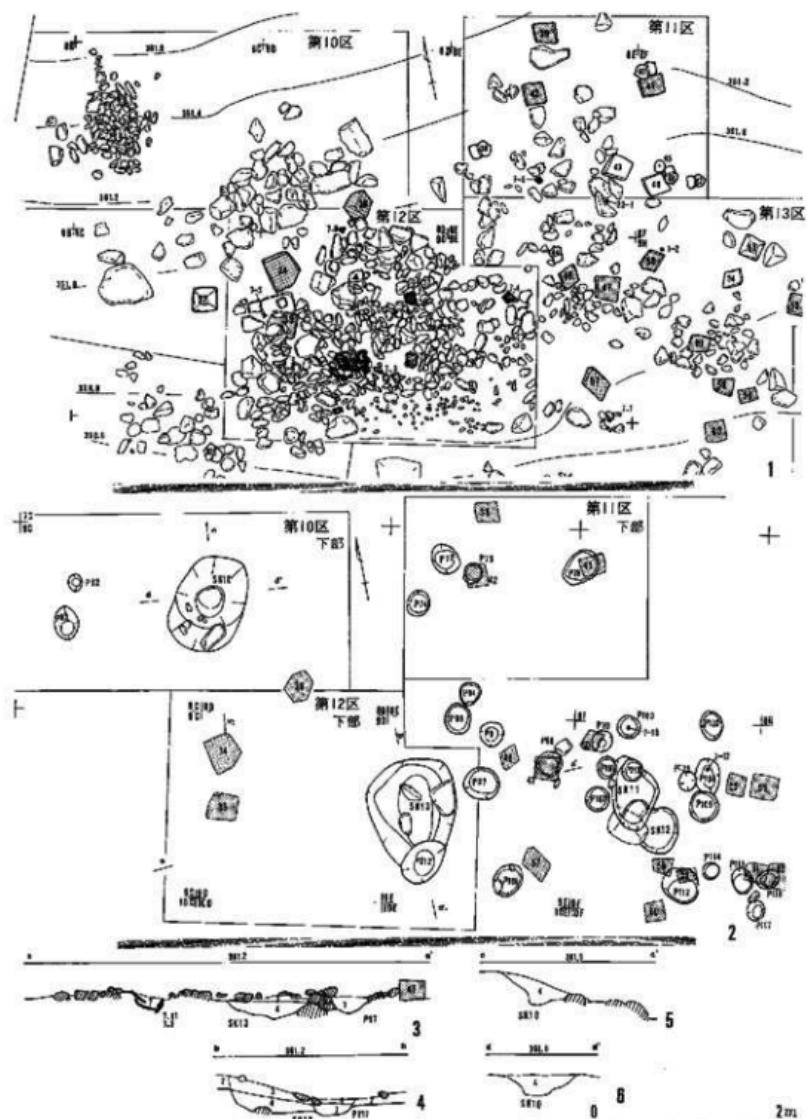




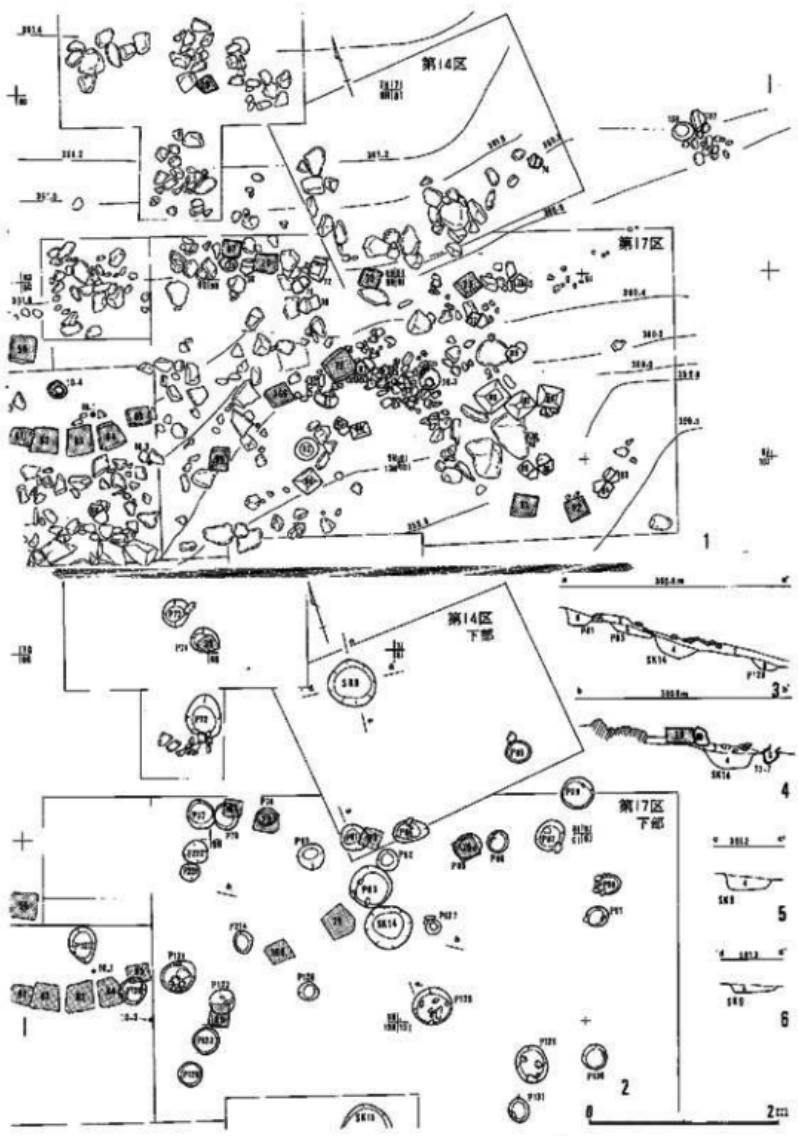
第17図 清水山第2地点遺構図(3) S = $\frac{1}{60}$



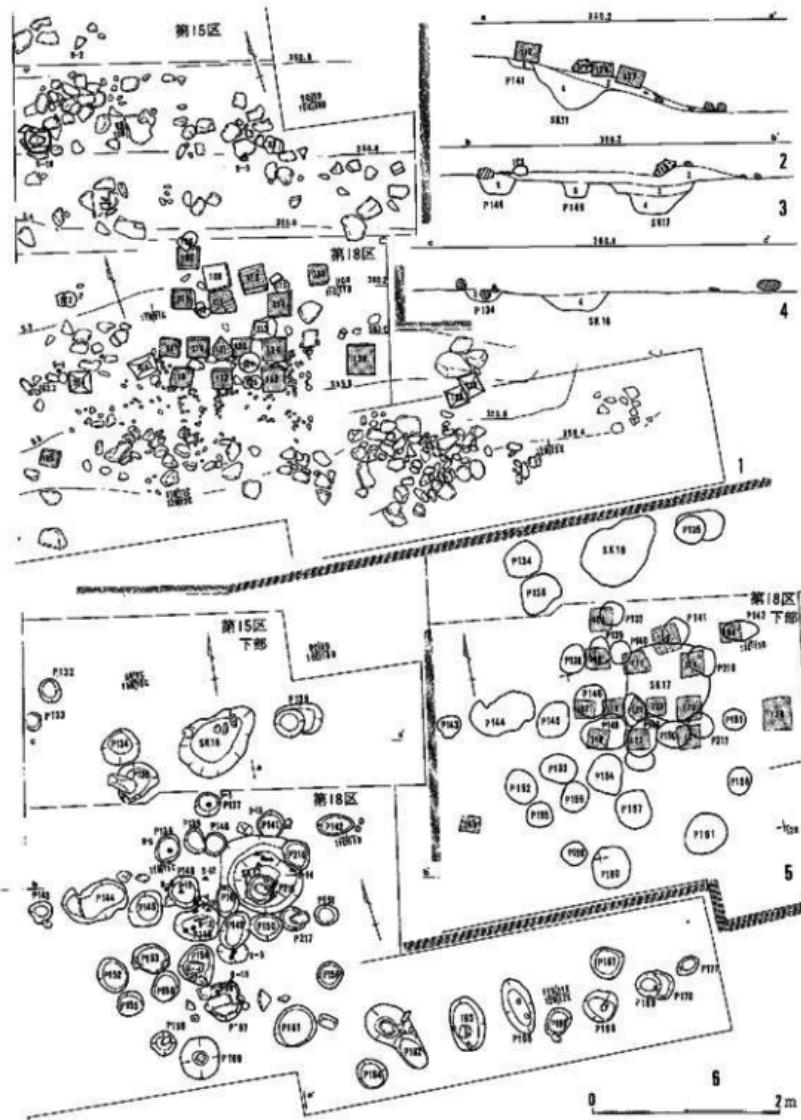
第18圖 清水山第2地点遺構図(4) S- $\frac{1}{16}$



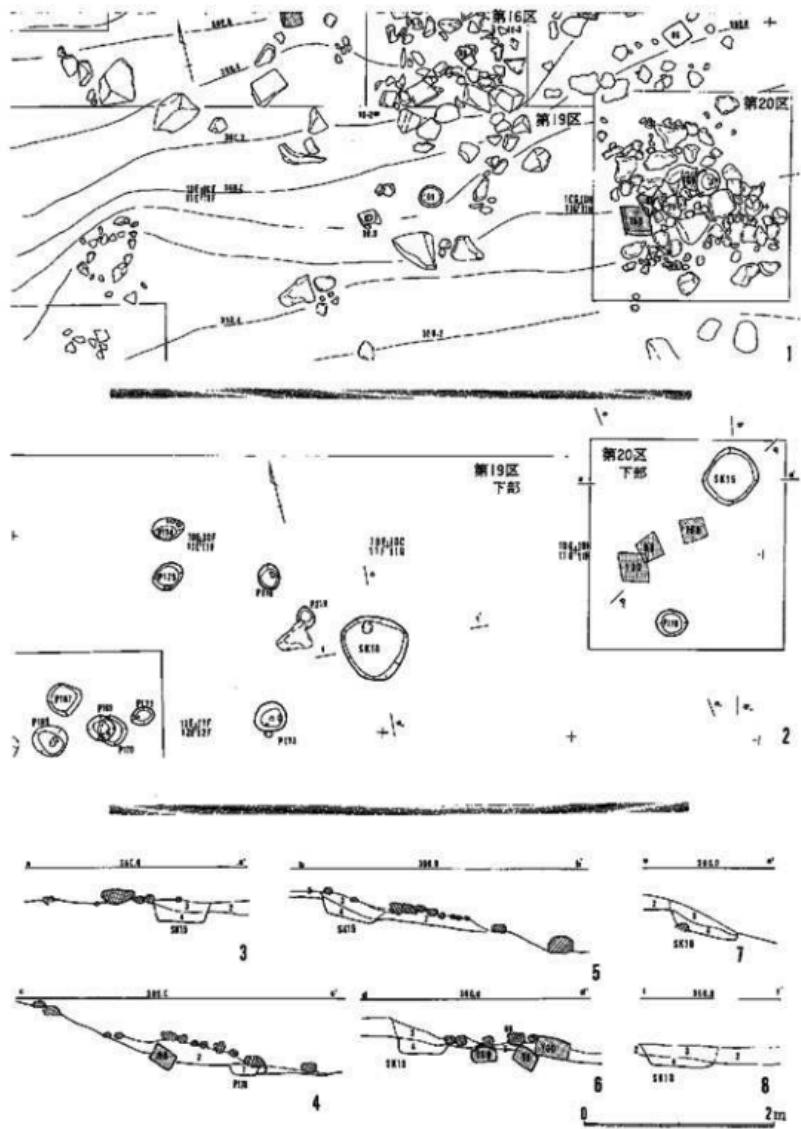
第19圖 清水山第2地点遺構図(5) S=1/50



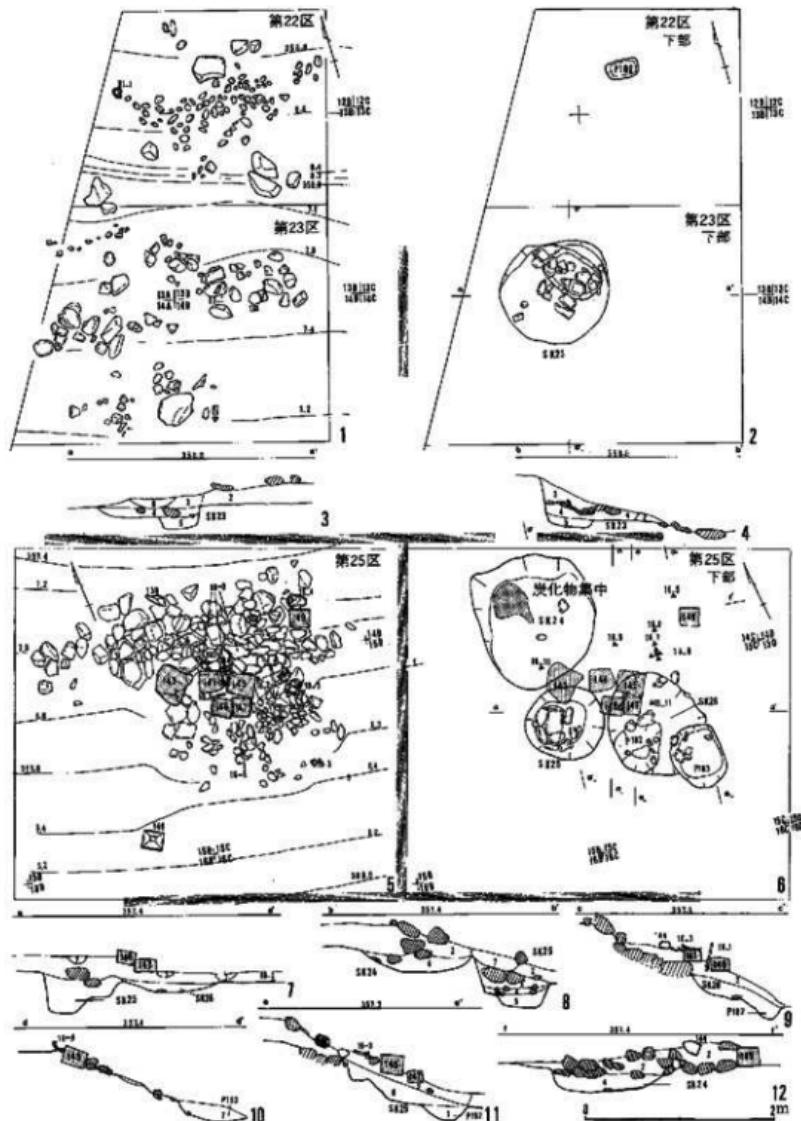
第20圖 清水山第2地点造構図(6) S=1/60

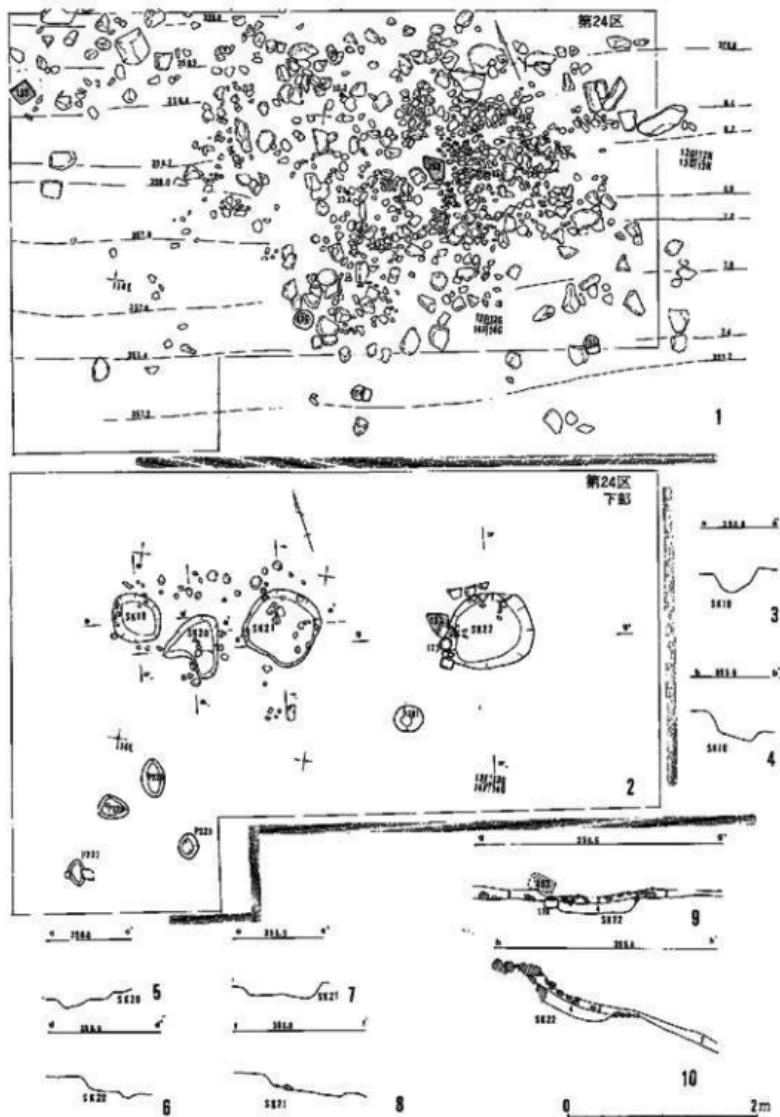


第21圖 清水山第2地点遺構図(7) $S = \frac{1}{60}$

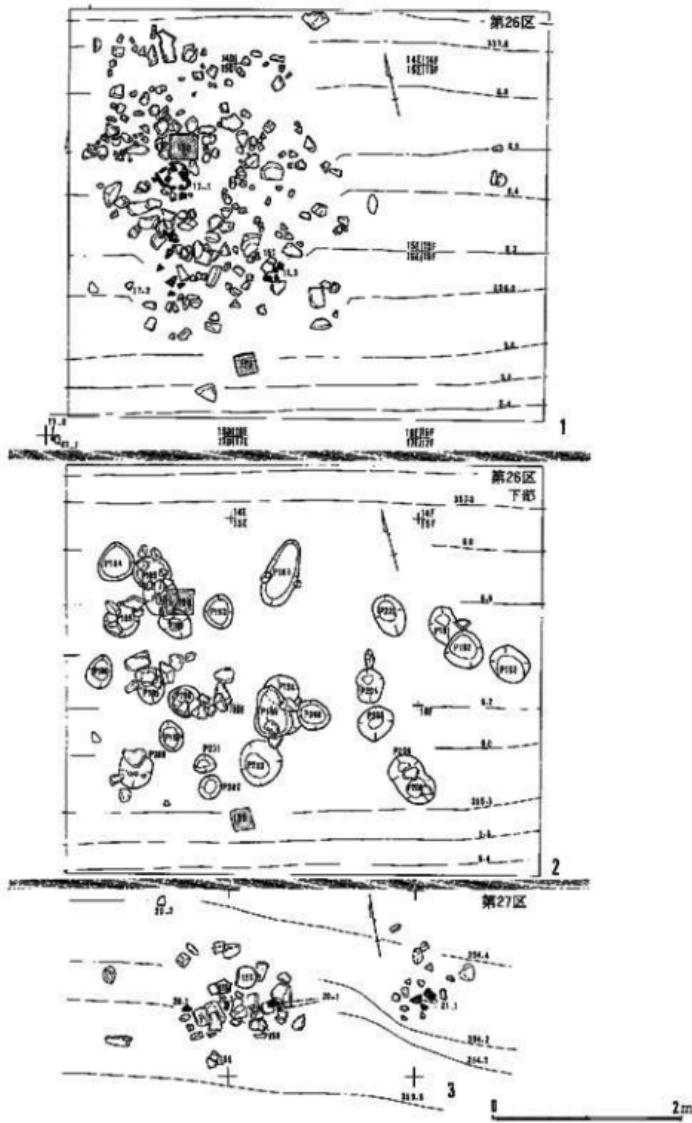


第22图 清水山第2地点遺構図(8) S=1/60





第24图 清水山第2地点遗構図(10) S = $\frac{1}{60}$



第25図 清水山第2地点遺構図(11) S- $\frac{1}{60}$

図版	墓区域	特徴	遺物	備考
15-1.2	1	B-ア		地輪を石岡。
15-3	2	A-エ		
15-4.5	3	A-ア		
16-1.2	4	ウ		
16-3.4	6	A-ア・イ	古銭(25 1)	
16-3.4	7	A-ア・イ		地輪群の斜面上にSK4
17-1.2	5	C-ア・ウ		前面に小石を方形に敷く
17-3.4	8	C-ア	須恵器片(26-1-3)、古銭(32-32)	須恵器片で焼呑を囲む
18-1.2	9	C-ア	須恵器片(32-1)	集石や隕石は川原石
18-3.4	17	C-ア	古銭(7-10, 23 1)、珠洲系陶器片(7-7)	
18-3.4	16	C-ア	珠洲系陶器(10-4)、古銭(10-1-3)	骨壺の前面に地輪列
19-1.2	10	C-ア・ウ	珠洲系陶器(7-5)	集石は川原石
19-1.2	12	C-ア	珠洲系陶器(7-3-4-8-9-11)、釘(7-5)	骨壺の裏面は川原石集石。前面に小石を敷く
19-1.2	13	C-ア・ウ	古銭(7-1-2-12-13-14-15)	
20-1.2	14	E-イ		SK9の斜面下に方形の配石
20-1.2	15	C-ア・イ	珠洲系陶器(10-7)	骨壺の周面に集石
21-1.2	17	C-ア・イ・ウ	珠洲系陶器(9-2-3-17-18)	口縁の上に石の蓋
21-1.2, 3.3	18	C-ア・イ・ウ	古銭(9-1-5-7-9)、釘(9-6-11-15)、刀子(9-10)	地輪が整然と配石。前面に小石を敷く
21-1.2	20	C-ア・イ		地輪の上に又地輪がある。
21-1.2	21	D		集石は川原石
22-1.2	19	C-ア・イ・ウ	古銭(10-2)、須恵器片(10-6)	上部地滑りで不明
23-3.4	25	C-ア・ウ	板鏡(16 1)、青磁(16-2)、珠洲系陶器片(16-3-4)、カワラケ(16-12)、釘(16-5-11)	SK26上部は川原石集石。
23-1.2	22	C-ア	カワラケ(31-1)	集石は川原石
23-1.2	23	D-ウ	須恵器片(13 1)	SK23の下部敷石
24-1.2	24	C-ア・イ・ウ	須恵器片(15-1)、釘(30-3)	SK21-22上部川原石
25-1.2	26	C-ア・イ・ウ	珠洲系陶器(17-1-3)	地輪の前面に骨壺
25-3	27	F	磨製石斧(21-1)、隕石(20-1)、須恵器片(21-1)、珠洲系陶器片(21-1)	斜面上部から転がったもの

第4表 中世墓地群区域別表

S.K番号	火葬の有無	地区	東西	南北	深さ	備考
1	有		3	90	30	21 下部に石あり。地輪3トントン。
2	有		3	100	112	32 下部に石あり
3	有		3	84	76	19 下部に石あり
4	有		4	100	150	20 中央に溝あり
5	有		5	85	100	48 石圓い。下部に石あり。底面一部崩れ。
6	地上風化物火葬骨混じり		6	48	45	38
7	焼土風化物火葬骨混じり		6	40	50	23
8	焼土風化物火葬骨混じり		7	57	56	27
9	焼土風化物火葬骨混じり		14	52	44	20
10	有		10	95	100	37 中央底面ピット状。
11	焼土風化物火葬骨混じり		13	50	80	15 SK12と併設。
12	焼土風化物火葬骨混じり		13	40	50	14 SK11と併設。
13	有		13	95	130	24 ピット211, 212と併設。
14	焼土風化物火葬骨混じり		15	50	45	24
15	焼土風化物火葬骨混じり		20	57	50	23
16	有		17	70	70	32
17	有		18	86	86	47 地輪111, 112, 114, 121, 123, 126の下部施設。釘(9-14)。
18	有		19	70	80	30
19	有		24	50	52	28
20	火葬骨のみ		24	60	70	15
21	火葬骨のみ		24	85	85	14
22	有		24	90	80	38
23	有		23	116	110	50 下部に石あり。底面に小ピットあり
24	有		25	125	143	42 地輪143の下部施設
25	有		25	80	85	68 地輪143の下部施設。下部に石あり。
26	火葬骨多数		25	110	110	79 地輪145, 146, 147、板鏡(16 1)の下部施設。釘(16-11)。ピット180, 182, 183を併設。

第5表 火葬土壙属性

ピット番号	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	基地区	備考	ピット番号	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	基地区	備考
1	50.0	52.0	25.0	1		49	37.0	34.0	9.0	7	
2	35.0	35.0	27.0	1		50	44.0	28.0	2.0	7	
3	40.0	40.0	27.0	3		51	23.0	25.0	11.0	6	
4	40.0	35.0	26.0	3	地輪4	52	29.0	29.0	9.0	8	
5	28.0	24.0	21.0	3	地輪6	53	27.0	26.0	8.0	8	
6	43.0	28.0	6.0	3		54	28.0	31.0	14.0	8	地輪162
7	20.0	19.0	14.0	5		55	27.0	29.0	10.0	8	
8	25.0	25.0	27.0	5		56	50.0	32.0	3.0	8	
9	29.0	24.0	25.0	5		57	25.0	35.0	9.0	8	地輪28
10	20.0	21.0	14.0	6		58	18.0	21.0	8.0	8	
11	20.0	22.0	15.0	6		59	36.0	31.0	11.0	9	
12	29.0	30.0	14.0	6		60	24.0	23.0	12.0	9	
13	26.0	22.0	15.0	6	大石の下部	61	25.0	22.0	17.0	9	
14	34.0	41.0	18.0	6		62	32.0	28.0	21.0	9	
15	30.0	32.0	21.0	6		63	29.0	30.0	15.0	9	
16	29.0	30.0	14.0	6		64	30.0	30.0	6.0	9	地輪31。火葬骨なしと書い
17	20.0	22.0	13.0	6		65	30.0	34.0	6.0	9	
18	30.0	27.0	18.0	8		66	30.0	36.0	20.0	9	
19	30.0	28.0	17.0	8		67	25.0	25.0	13.0	9	
20	25.0	36.0	15.0	8		68	20.0	29.0	15.0	9	
21	30.0	31.0	20.0	8		69	25.0	17.0	13.0	8	
22	35.0	37.0	7.0	8		70	38.0	26.0	12.0	8	
23	30.0	30.0	10.0	7		71	25.0	29.0	13.0	8	地輪29
24	25.0	27.0	15.0	7		72	45.0	37.0	14.0	8	
25	29.0	30.0	7.0	7		73	31.0	32.0	13.0	11	
26	24.0	25.0	7.0	7		74	25.0	31.0	5.0	11	
27	26.0	22.0	7.0	8		75	2.0	2.0	13.0	11	地輪42
28	25.0	23.0	9.0	8		76	40.0	32.0	5.0	11	地輪41
29	30.0	27.0	10.0	8		77	29.0	30.0	12.0	15	地輪70
30	22.0	22.0	10.0	8		78	26.0	30.0	12.0	15	地輪67
31	25.0	23.0	6.0	8		79	25.0	20.0	12.0	15	
32	40.0	38.0	3.0	8		80	28.0	27.0	17.0	15	
33	28.0	30.0	8.0	8		81	31.0	30.0	18.0	15	地輪73
34	43.0	36.0	17.0	8		82	20.0	20.0	12.0	15	
35	38.0	37.0	6.0	8		83	47.0	48.0	16.0	15	
36	50.0	45.0	10.0	7	地輪9. 2ピット	84	34.0	22.0	9.0	15	
37	30.0	28.0	6.0	7	大石の下部	85	30.0	24.0	16.0	15	
38	45.0	27.0	13.0	7		86	24.0	22.0	12.0	15	
39	25.0	30.0	7.0	7		87	33.0	30.0	11.0	15	
40	21.0	24.0	10.0	7		88	28.0	21.0	9.0	14	
41	30.0	28.0	5.0	7		89	37.0	33.0	10.0	15	
42	26.0	25.0	12.0	7		90	28.0	21.0	8.0	15	
43	22.0	23.0	—	7		91	28.0	20.0	11.0	15	
44	33.0	34.0	6.0	7	地輪16	92	16.0	19.0	8.0	10	
45	27.0	31.0	2.0	7		93	29.0	35.0	14.0	10	
46	19.0	19.0	11.0	7		94	25.0	29.0	5.0	13	
47	16.0	14.0	9.0	7		95	28.0	33.0	13.0	13	
48	27.0	26.0	20.0	7		96	28.0	25.0	11.0	13	

第6表 火葬骨埋設ピット表(1)

ピット番号	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	墓地区	備考
97	38.0	38.0	20.0	13	
98	30.0	26.0	12.0	13	地輪47
99	20.0	22.0	7.0	13	
100	25.0	24.0	8.0	13	占鉄(7-15)
101	21.0	25.0	4.0	13	
102	25.0	26.0	7.0	13	
103	24.0	33.0	10.0	13	
104	25.0	42.0	9.0	13	古鉄(7-12)
105	36.0	30.0	6.0	13	
106	15.0	20.0	4.0	13	
107	29.0	40.0	14.0	16	
108	34.0	35.0	6.0	13	
109	30.0	21.0	6.0	13	
110	25.0	25.0	17.0	13	地輪62
111	35.0	33.0	15.0	13	
112	40.0	41.0	11.0	13	地輪58、59
113	30.0	22.0	5.0	13	
114	18.0	15.0	1.0	13	
115	22.0	28.0	9.0	16	地輪61
116	25.0	20.0	9.0	16	地輪62
117	18.0	19.0	8.0	16	
118	22.0	24.0	5.0	16	
119	32.0	25.0	14.0	16	地輪63
120	30.0	26.0	14.0	16	地輪64、65
121	40.0	34.0	11.0	15	
122	33.0	26.0	7.0	15	地輪95
123	29.0	30.0	14.0	15	
124	30.0	34.0	10.0	16	
125	25.0	26.0	7.0	15	
126	23.0	20.0	7.0	15	
127	16.0	15.0	14.0	15	土器埋設(10-7)
128	45.0	40.0	6.0	15	
129	39.0	42.0	17.0	20	
130	26.0	30.0	17.0	20	
131	23.0	26.0	14.0	20	
132	22.0	23.0	32.0	17	
133	15.0	18.0	1.0	17	
134	40.0	37.0	18.0	17	
135	52.0	32.0	27.0	17	
136	53.0	40.0	14.0	17	
137	26.0	26.0	16.0	18	地輪107、占鉄(9-5)
138	27.0	30.0	14.0	18	古鉄(9-6)
139	21.0	25.0	17.0	18	地輪138
140	22.0	25.0	17.0	18	地輪111
141	30.0	26.0	7.0	18	地輪112
142	40.0	35.0	5.0	18	地輪164
143	25.0	24.0	8.0	18	2ピット
144	70.0	45.0	21.0	18	

ピット番号	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	墓地区	備考
145	40.0	35.0	5.0	18	
146	34.0	36.0	22.0	18	地輪117、古鉄(9-9)、鉄(9-4、19)
147	20.0	35.0	6.0	18	地輪121
148	48.0	46.0	15.0	18	地輪118、古鉄、刀子(9-10)、鉄(9-11)
149	30.0	41.0	9.0	18	地輪122、古鉄(9-8)、2ピット
150	35.0	30.0	5.0	18	地輪127、古鉄(9-8)
151	25.0	22.0	18.0	18	
152	35.0	36.0	23.0	18	
153	41.0	28.0	14.0	18	
154	36.0	43.0	13.0	18	
155	30.0	26.0	12.0	18	
156	30.0	33.0	27.0	18	
157	43.0	25.0	17.0	18	古鉄(9-20)、鉄(9-15)、2ピット
158	30.0	28.0	9.0	21	
159	28.0	26.0	10.0	18	
160	42.0	44.0	18.0	18	
161	45.0	40.0	19.0	21	
162	45.0	40.0	12.0	21	2ピット
163	36.0	56.0	8.0	21	
164	33.0	30.0	18.0	21	
165	32.0	60.0	11.0	21	
166	30.0	26.0	21.0	21	
167	36.0	35.0	12.0	21	
168	38.0	32.0	21.0	21	
169	26.0	28.0	17.0	21	
170	30.0	35.0	12.0	21	
171	25.0	20.0	5.0	21	土器片あり
172	14.0	18.0	5.0	24	
173	35.0	30.0	12.0	19	
174	33.0	23.0	19.0	19	
175	28.0	30.0	11.0	19	
176	24.0	25.0	5.0	19	
177	34.0	24.0	10.0	24	
178	35.0	28.0	10.0	19	
179	24.0	40.0	19.0	24	
180	35.0	20.0	19.0	22	大石の下部
181	32.0	25.0	10.0	24	
182	50.0	50.0	23.0	25	
183	55.0	70.0	15.0	25	
184	39.0	42.0	12.0	26	
185	40.0	32.0	17.0	26	
186	75.0	36.0	23.0	26	
187	37.0	39.0	16.0	26	地輪150
188	40.0	33.0	12.0	26	

第7表 火葬骨埋設ピット表 (2)

ピット 番号	東西 (cm)	南北 (cm)	深さ (cm)	墓地番	備考	ピット 番号	東西 (cm)	南北 (cm)	深さ (cm)	墓地番	備考
188	34.0	41.0	15.0	26	地輪150	207	40.0	30.0	4.0	26	
190	43.0	35.0	4.0	26		208	36.0	43.0	4.0	4	
191	32.0	40.0	12.0	26		209	27.0	30.0	14.0	8	
192	41.0	39.0	18.0	26		210	34.0	28.0	10.0	11	
193	42.0	42.0	13.0	26		211	38.0	34.0	12.0	12	
194	28.0	34.0	15.0	26		212	45.0	40.0	4.0	12	
195	32.0	37.0	12.0	26		213	24.0	24.0	5.0	13	
196	45.0	32.0	14.0	26		214	19.0	22.0	11.0	15	
197	32.0	28.0	18.0	26		215	25.0	25.0	6.0	13	
198	43.0	32.0	18.0	26		216	29.0	32.0	11.0	18	地輪114
199	40.0	55.0	9.0	26		217	26.0	25.0	9.0	18	
200	35.0	31.0	3.0	26		218	24.0	32.0	8.0	18	
201	24.0	25.0	11.0	26		219	19.0	24.0	12.0	19	
202	20.0	22.0	13.0	26		220	30.0	44.0	4.0	26	
203	45.0	50.0	11.0	26		221	25.0	20.0	2.0	2	
204	30.0	35.0	13.0	26		222	30.0	25.0	4.0	15	
205	36.0	38.0	12.0	26		223	20.0	19.0	4.0	15	
206	35.0	25.0	4.0	26		224	20.0	30.0	12.0	24	

第8表 大葬骨埋設ピット表 (3)

B 青磁片 (第28図1、第9表)

破片が小さく文様の全体像がはっきりせず器形もはっきりしない。器厚は薄い。蓮弁文か。

C 古瀬戸陶器片 (第28図2、第9表)

底部の高台の部分の破片である。釉は灰白色で調部より垂れ下がると思われる2条の細い沈線がある。器形は不明である。

D カワラケ (中世土器皿) (第28図3-5、第9表)

3・4は手づくねである。5は3・4の赤褐色のものに比べ白褐色のカワラケである。5は輪成形である。

E 須恵器 (第28図7-16、第29図、第9~10表)

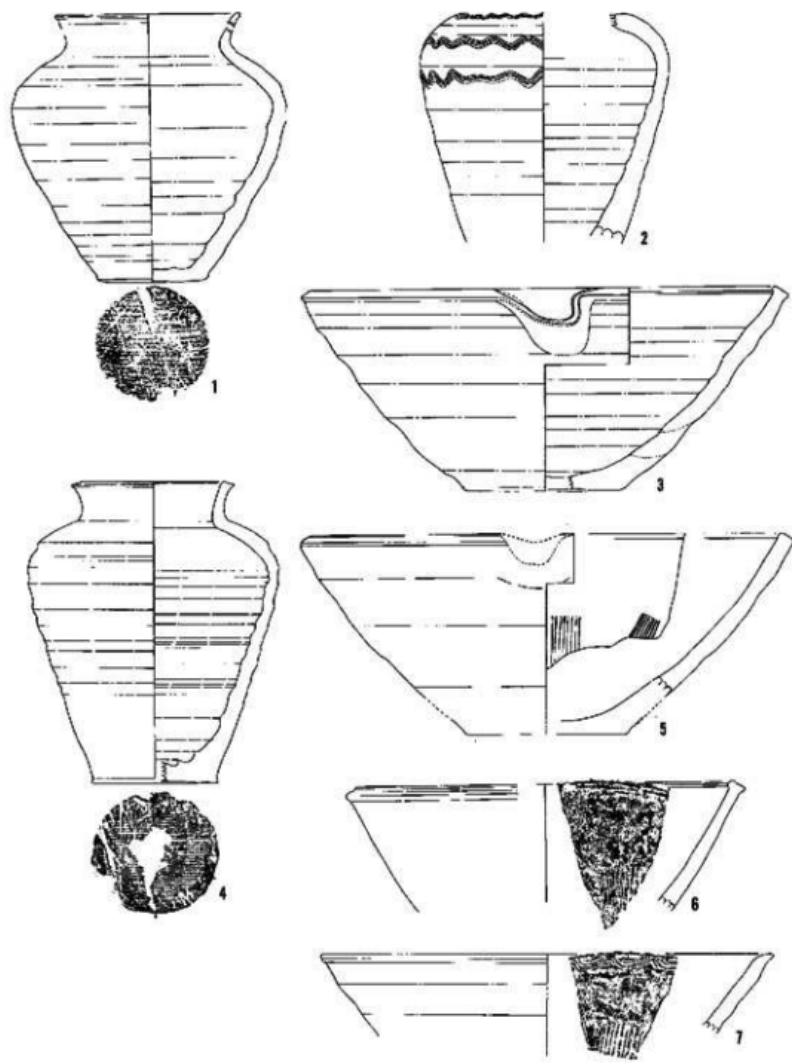
これら須恵器は奈良時代から平安時代にかけての破片であり、清水山第1地点や池田端など周辺の窯跡より拾ってきたものを、第2地点では火葬骨を埋設するときの容器変わりに用いていたものと思われる。

F 板碑 (第30図1)

緑泥片岩製の武藏型板碑である。長さ30cm幅11cmの小型の板碑で、頂角の一部が欠損している。頂上線の沈線がみられず、種子の「キリーク」の凡字が平彫りで影されている。種子の大きさは縦7.5cm、幅5.5cmで長細い文字の形態である。種子の下には蓮座もなく紀年名も造立軸旨も彫られていない。表面は良く磨かれており、柄部にノミ加工の痕跡を残す。裏面は側縁部に剥離加工痕が残っており、上部と下部にノミ痕跡もみられる。出土地は25区。

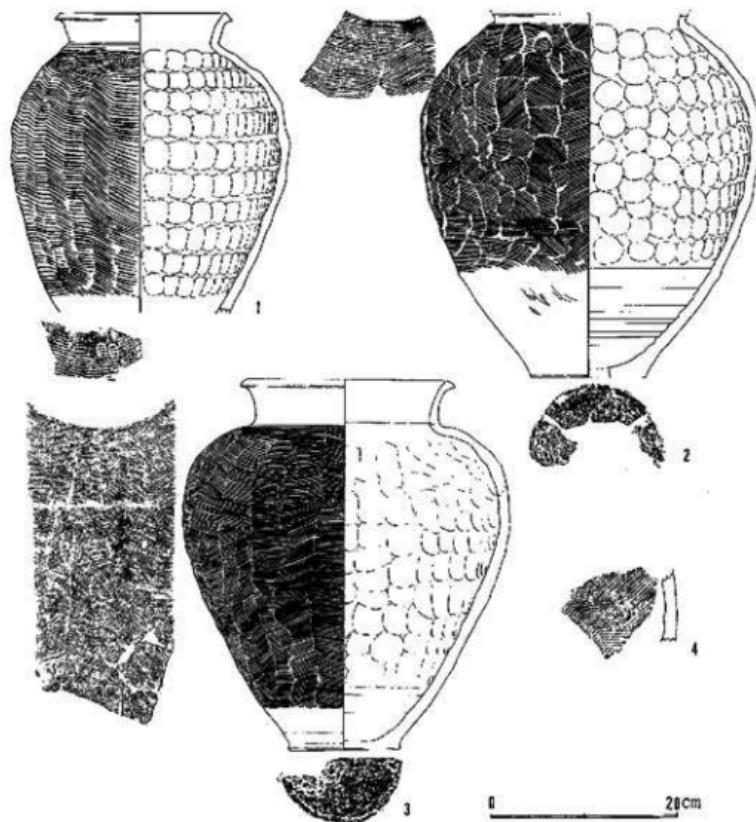
G 砥石 (第30図4)

須恵器の壺の破片を転用して砥石として用いたものである。表面研ぎ痕と刃痕がみられる。一部に壺のタクキメ痕がみられる。出土地は26区。



20 CM

第26圖 清水山第2地点出土遗物(1) $S = \frac{1}{4}$



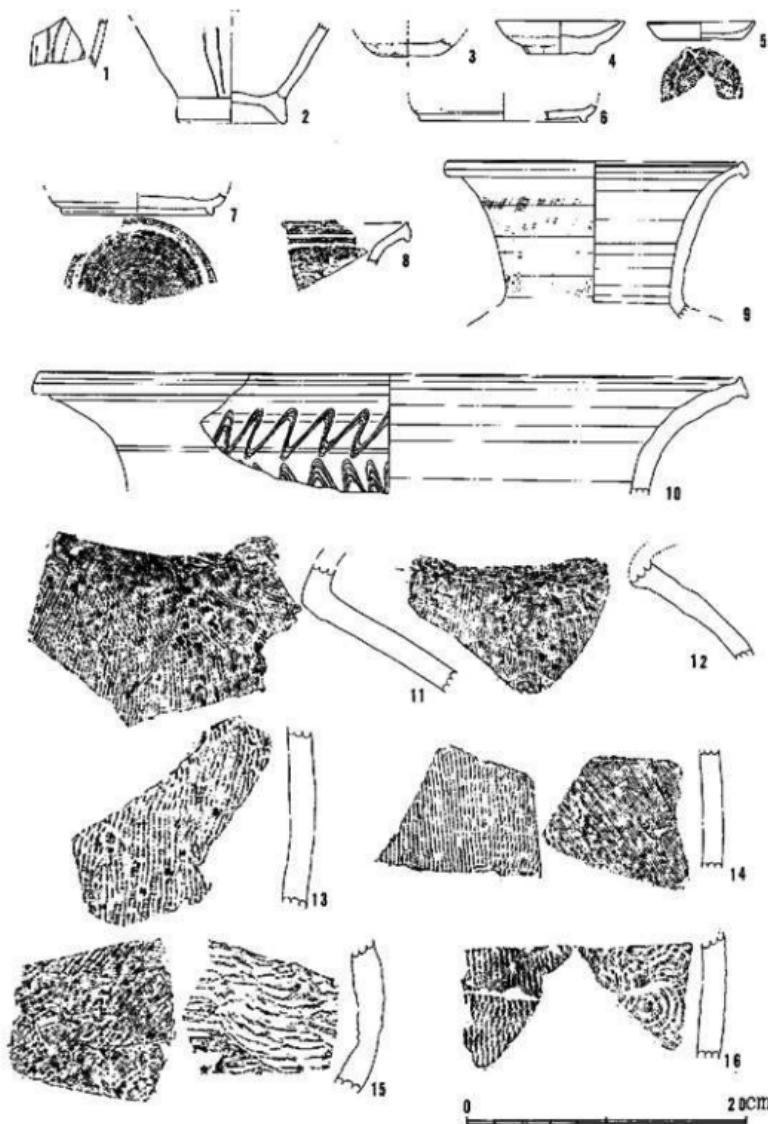
第27図 清水川第2地点出土遺物(2) S = $\frac{1}{6}$

F 古銭 (第30図5-16) (第11表) (遺構図において出土位置は●で表示)

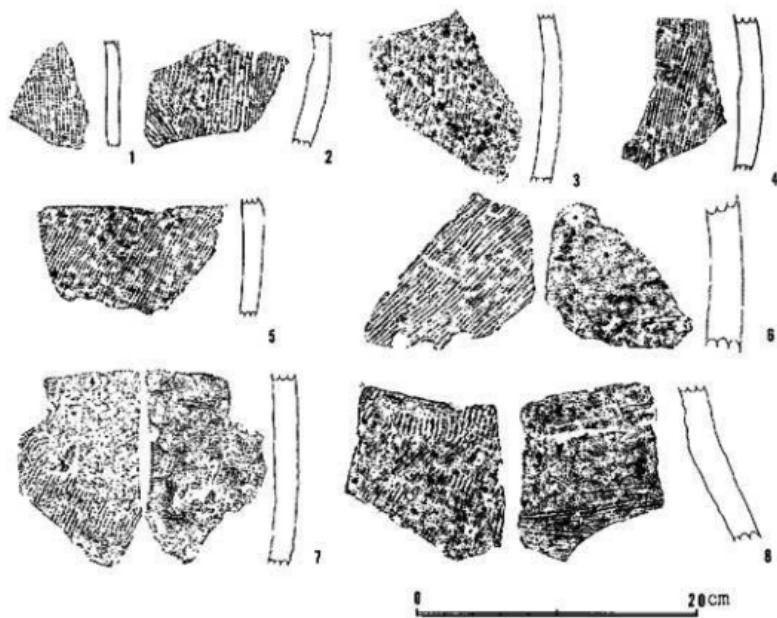
拓本が取れた古銭は12枚であるが、発掘では34枚の古銭が出土した。これら古銭は火葬骨と共に検出されており、ほとんどの古銭が火葬の最一緒に焼かれた物と思われ風化が激しい。唐銭の開元通寶（621年発行）から明銭の洪武通寶（1368年発行）までの古銭がみられ、皇宋通寶と元豐通寶の北宋銭が多く発見された。南宋銭は発見されなかった。私鑄銭は1点のみ表面で発見された。

G 刀子 (第31図1、第12表)

長さ17.7cm幅1.5cmの刀子である。ピット148内に焼骨と元豊通寶・皇宋通寶の古銭と共に出土



第28圖 清水山第2地点出土遗物(3) S=1/4



第29図 清水山第2地点出土遺物(4) S = $\frac{1}{4}$

している。その上部に地輪(118)が位置していた。

H 鉄釘 (第31図2-25、第12表) (遺構図において出土位置は▲で表示)

釘は長さや太さによって、太く10cm以上の物(第31図6)、8cm前後の物(第31図1-5、11-25)、細く5cm前後の物(第31図7-10)に3分類される。これらは火葬骨と一緒に出土しており、火葬の際お棺に遺体が納められていたことを窺わせる物である。

第31図7の釘の一部に金箔が僅かに付着していた。SK24の上面で、地輪(143)脇で出土。

I 五輪塔 (第32-37図、第13-第16表)

1 空風輪 (第32-33図、第34図1-13)

空風輪は全点で51基出土している。空輪部分の先端の形態で6分類した。

(ア) 梗実タイプ(32図1)、(イ) 球形で頂部突起が僅かに尖るタイプ(32図3-8)、(ウ) 肩の部分が張ってくるタイプ(32図2・9-13)、(エ) 肩の部分に棱があり頂部が三角形になるタイプ(32図14-20)、(オ) 棱があり頂部突起が僅かに尖るタイプ(33図1-20)、(カ) 棱があり頂部先端が尖り立つタイプ(34図1-13)に分類される。

2 火輪 (第34図14-22、第35図)

火輪は全点で25基出土している。火輪部分は笠の高さと軒の反りで4分類した。

国施 番号	遺跡 番号	出土 区	種 別	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	口縁特徴	部特徴		備 考
									上半部	底部	
26-1	10-4	16	珠洲系陶 器	壺A	12.8	6.6	15.4	緩く外反丸み 有る口唇部	張っている	-	骨壺
26-2	16-4	25	珠洲系陶 器	壺B					上半部波状崩描き文	-	骨壺
26-3	9-18	17	珠洲系陶 器	片口鉢	32.7	10.4	14.5				火葬骨入 り石で壺
26-4	10-7	15	珠洲系陶 器	壺A	10.0	8.9	21.4	緩く外反する 平縁	底部下の上半部が張 っている	静止糸切り	骨壺
26-5	7-3、 30-1	12	珠洲系陶 器	片口掘り 鉢	33.0	11.5	14.3	やや内斂する 平縁	内面8本の垂歯文で 確に施文		
26-6	9-2	17	珠洲系陶 器	掘り鉢	26.6			やや内斂する 平縁	内面8本の垂歯文で 確に施文		
26-7	7-8		珠洲系陶 器	掘り鉢	32.0			やや外反口唇 部内面に波状 崩描き文を巡 らす	内面6本の垂歯文で 確に施文	静止糸切り	
27-1	17-1	26	珠洲系陶 器	壺C	17.5			緩く外反する 平縁	上半部に緩い膨らみ をもつ頸基部より堅 然と右きかげのタタ キメ。頸基部に2つ の馬蹄形押印文。内 面円滑て具痕		骨壺
27-2	7-11	12	珠洲系陶 器	壺C		12.3			肩部に膨らみをもつ 体部頸基部より緩か タタキメ。内面円形 窓て具痕。頸基部に 押花文	静止糸切り	骨壺
27-3	16-3	25	珠洲系陶 器	壺C	21.2	11.4	39.6	緩く外反する 平縁	頸基部よりきつい膨 らみをもつ。頸基部 より細目の波杉タタ キメ。円形窓て具痕	静止糸切り	骨壺
27-4	21-1	27	珠洲系陶 器	壺C破片					波杉タタキメ文		
28-1	16-2	25	青磁破片	?							羅文文
28-2	17-8	26	古瀬戸	底部破片		7.6			2条權沈模有、白線 色釉	密合付	
28-3	10-5	19	土師器 (カワラ ケ)	小豆					手づくね	觸触に指押え 痕	
28-4	31-1	22	土師器 (カワラ ケ)	小豆	8.8	4.6	2.4		手づくね	周縁に指押え 痕	
28-5	16-12	25	土師器 (カワラ ケ)	小豆	7.4	4.6	2.6		ロクロ成形	圓軸糸切り	
28-6	9-17	17	須恵器	高台仕杯 破片							
28-7	15-1	21	須恵器	高台付軒 破片		10.6				「×」印	

第9表 中世墓址出土遺物属性(1)

図版 番号	遺跡 番号	出土 区	種 別	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	口縁特徴	体部特徴	底部特徴	備 考
28-8	4-1		須恵器	壺口縁部 破片				有段で外反	頸部波状拂拭文		
28-9	26-1	8	須恵器	壺口縁				有段で外反	頸部平行タタキメ拂 拭し調整		
28-10	26-3	8	須恵器	壺口縁	20.6			有段で外反	頸部波状拂拭文		
28-11	26-3	8	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ		
28-12	5-2	7	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ		
28-13	7-7	12	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ		
28-14	7-4	12	須恵器	壺破片					胴部表タタキ内面メ ハケメ調整		
28-15	10-5	19	須恵器	壺破片					胴部表タタキ内面同 心円タタキメ文		
28-16	21-1	27	須恵器	壺破片					胴部表タタキ内面同 心円タタキメ文		
29-1	26-3	8	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ文		
29-2	21-1	8	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ文		
29-3	16-5	25	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ文		
29-4	20-1	27	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ文		
29-5	32-1	9	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ文		
29-6	32-1	9	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ文 内面ハケメ調整		
29-7	26-3	8	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ文 内面ハケメ調整		
29-8	26-3	8	須恵器	壺破片					胴部平行タタキメ文 内面ハケメ調整		

第10表 中世墓址出土遺物属性(2)

(ア) 高さがなく軒部の反りが少ないタイプ(34図14)、(イ) 笠が高く軒部の反りが少ないタイプ(34図17-22、35図11・12)、(ウ) 笠が低く軒部の反りがあるタイプ(34図15-17、35図1-8、18)、(エ) 笠が高く軒部の返りがあるタイプ(35図9・10、13-17)に分類される。

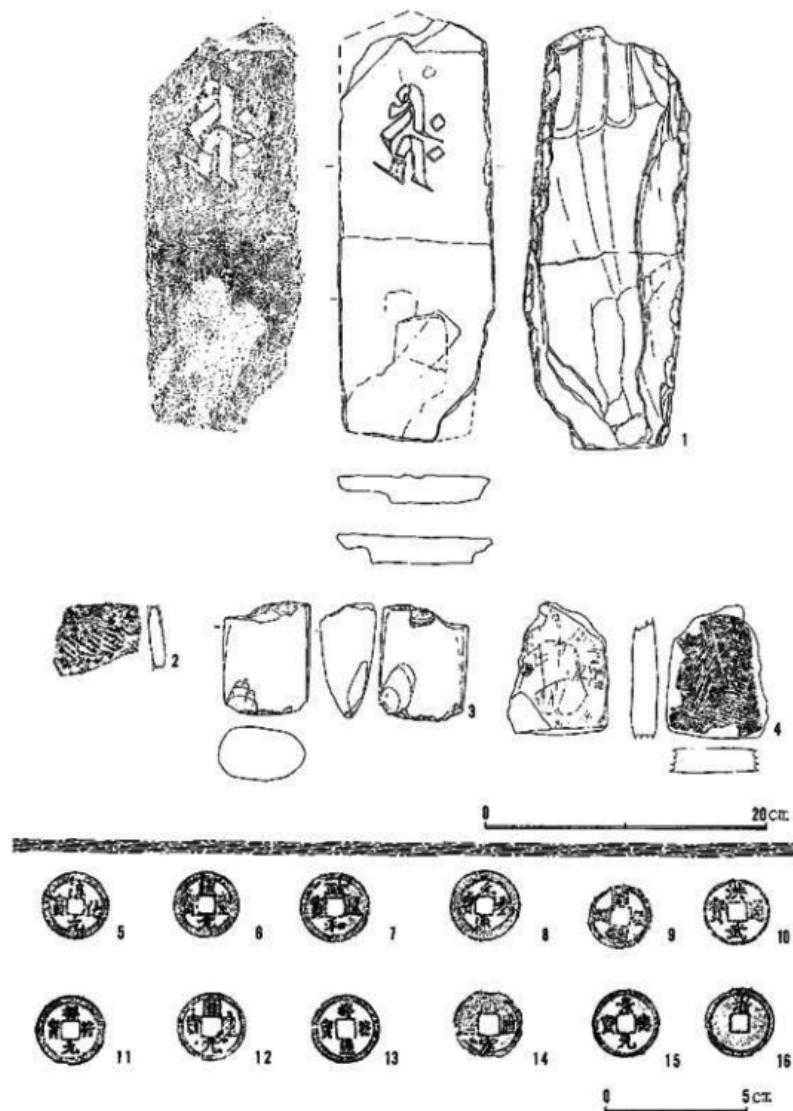
3 水輪(第36図1-13)

水輪は全点で15基出土している。形態は球形の上部と下部を切り取りその部分に凹を設けたような形態である。

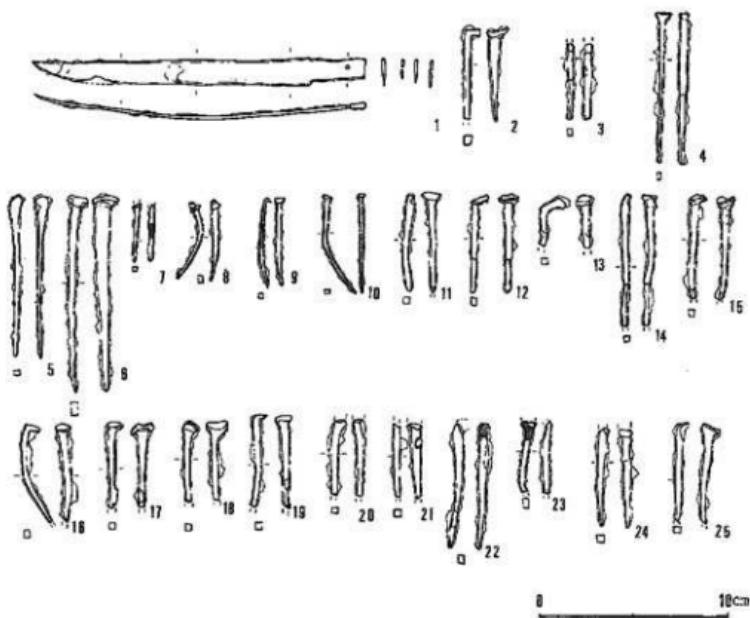
4 地輪(第36図14・第37図1-12)

地輪は全点で79基出土している。36図14は焼骨を納骨するための凹が彫られている。形態は高さと横幅の差で4タイプに分類できる。

(ア) 横幅と高さの差が10cm以上で高さが低く横幅が広いタイプ(第37図1、2)、(イ) 横幅と高さの差が7-9cmぐらいのやや高さが低く横幅が広いタイプ(第37図3-5)、(ウ) 高さと横幅差が5-6cmタイプ(第37図6-8)、(エ) 高さと横幅の差が4cm以下(第37図9-12)のほぼ差のないタイプに分類される。第37図13-17は(ア)と(イ)タイプの地輪を模式図として掲載した。13と17は(イ)タイプ、14-16は(ア)タイプである。



第30圖 清水山第2地点出土遺物(5) 1~4 ($S = \frac{1}{2}$)
5~16 ($S = \frac{1}{2}$)



第31図 第2地点出土遺物(6) S = $\frac{1}{3}$

J その他 (第30図 2・3)

30図2は縄文の土器片である。胎土に纖維が入っていたと思われる。須恵器片と共に火葬骨入りビットの付近で検出された。30図3は磨製石斧の刃部部分である。直刀である。縄文土器片も磨製石斧も中世遺構の覆土中に混入して検出された。

第5節まとめ

1 縄文時代

清水山北斜面には縄文時代の土壙が4ヶ所発見された。第1地点SK2とSK4は縄文時代前期のループ文の破片が出土し、土壤内に炭化物等検出されたことなどから、この期のキャンプサイトである可能性がある。狩猟の際、暖を取った場であろうか。中野市内では前期前半のループ文の発見された遺跡が少なく、この期の行動様式がはっきりしておらず、今後の周辺での同期遺跡発見例を待ちたい。

国版番号	出土区	遺物番号	遺物名	備考
30-5	13	7-13	淳化元宝	990年鑄造
30-6	13	7-1	綱聖元寶	1094年鑄造
30-7	16	10-1	政和通寶	1111年鑄造
30-8	6	25-1	元豐通寶	1078年鑄造
30-9	13	23-1	皇宋通寶	1039年鑄造
30-10	8	32-32	洪武通寶	1368年鑄造
30-11	8	32-32	祥符元寶	1008年鑄造
30-12	8	32-32	開元通寶	621年鑄造
30-13	8	32-32	祥符通寶	1008年鑄造
30-14	8	32-32	皇宋通寶	1039年鑄造
			2枚小土	
30-15	16	10-3	景德元寶	1004年鑄造
30-16	16	10-3	洪武通寶 (浙)	1368年鑄造 景祐元寶と2枚
	7	5-1	皇宋通寶	1039年鑄造
	7	5-1	元祐通寶	1086年鑄造
	13	7-2	熙寧通寶	1068年鑄造

国版番号	出土区	遺物番号	遺物名	備考
		13	7-10	皇宋通寶
		13	7-12	熙寧通寶
		13	7-14	洪武通寶
		13	7-14	?
		13	7-15	治平元寶
		13	7-15	熙寧通寶
		13	7-16	天聖元寶
		16	10-1	政和通寶
		18	9-1	元祐通寶
		18	9-5	開元通寶
		18	9-7	元豐通寶
		18	9-8	元豐通宝
		18	9-8	聖宋元寶
		18	9-9	元豐通寶
		18	9-20	立祐元寶
				1056年鑄造
			表採	熙寧元寶
			表採	私鑄

第11表 古 錢

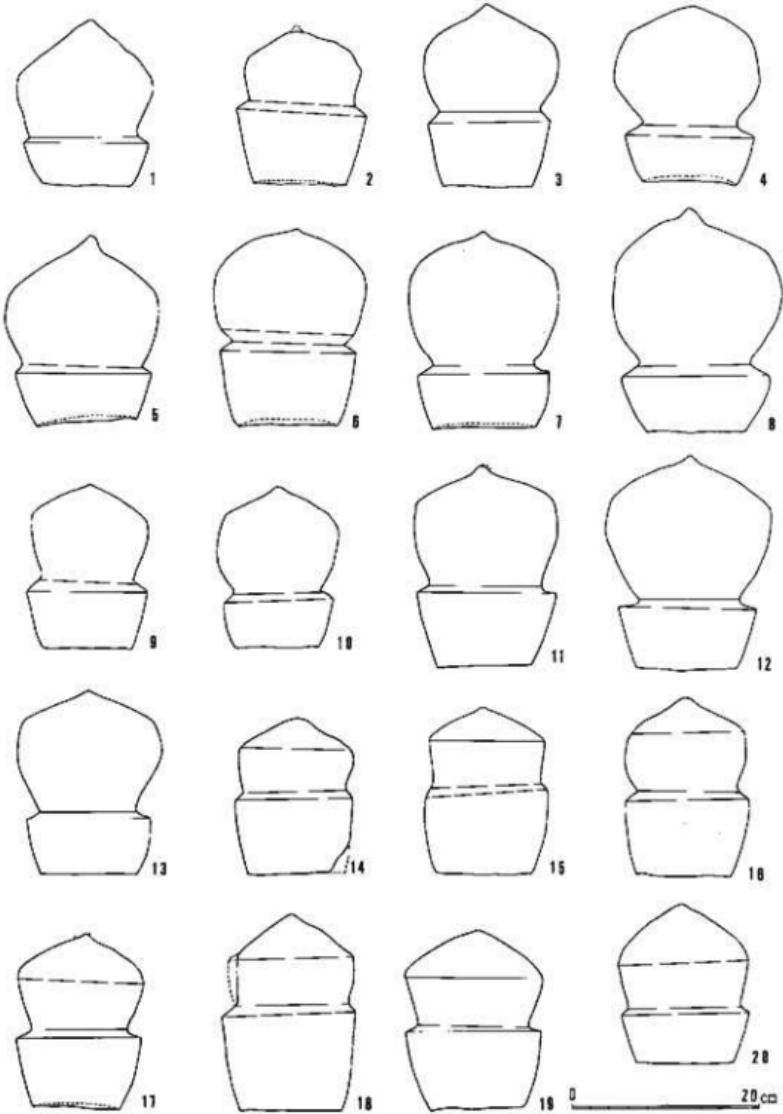
国版番号	出土区	遺跡番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚み(m)	備考
31-1	18	9-10	刀子	17.7	1.5	0.1	ビット148内陣版
31-2	12	7-6	釘	4.8	0.5	0.4	先端欠損
31-3	23	30-3	釘	4.0	0.3	0.4	基部欠損
31-4	23	30-3	釘	8.2	0.2	0.4	
31-5	25	16-9	釘	8.7	0.3	0.2	
31-6	25	16-11	釘	10.7	0.4	0.7	
31-7	25	16-10	釘	3.0	0.2	0.3	金箔付刃、基部欠損
31-8	25	16-2	釘	4.3	0.3	0.4	
31-9	25	16-5	釘	4.7	0.3	0.3	
31-10	25	16-8	釘	5.4	0.3	0.2	
31-11	25	16-8	釘	5.3	0.3	0.3	先端欠損
31-12	18	9-4	釘	5.3	0.3	0.4	先端欠損
31-13	18	9-4	釘	2.8	0.4	0.4	先端欠損
31-14	18	9-11	釘	7.2	0.3	0.3	先端欠損
31-15	18	9-12	釘	5.6	0.3	0.3	先端欠損
31-16	18	9-19	釘	6.4	0.3	0.4	先端欠損
31-17	18	9-19	釘	4.5	0.4	0.3	先端欠損
31-18	18	9-19	釘	4.3	0.3	0.3	先端欠損
31-19	18	9-19	釘	5.0	0.4	0.4	先端欠損
31-20	18	9-19	釘	4.0	0.4	0.3	先端基部欠損
31-21	18	9-19	釘	4.9	0.4	0.4	先端基部欠損
31-22	18	9-13	釘	6.8	0.3	0.4	先端基部欠損
31-23	18	9-13	釘	3.8	0.3	0.3	先端基部欠損
31-24	18	9-14	釘	5.4	0.4	0.3	基部欠損
31-25	18	9-15	釘	5.3	0.4	0.3	先端欠損

第12表 鉄製品属性

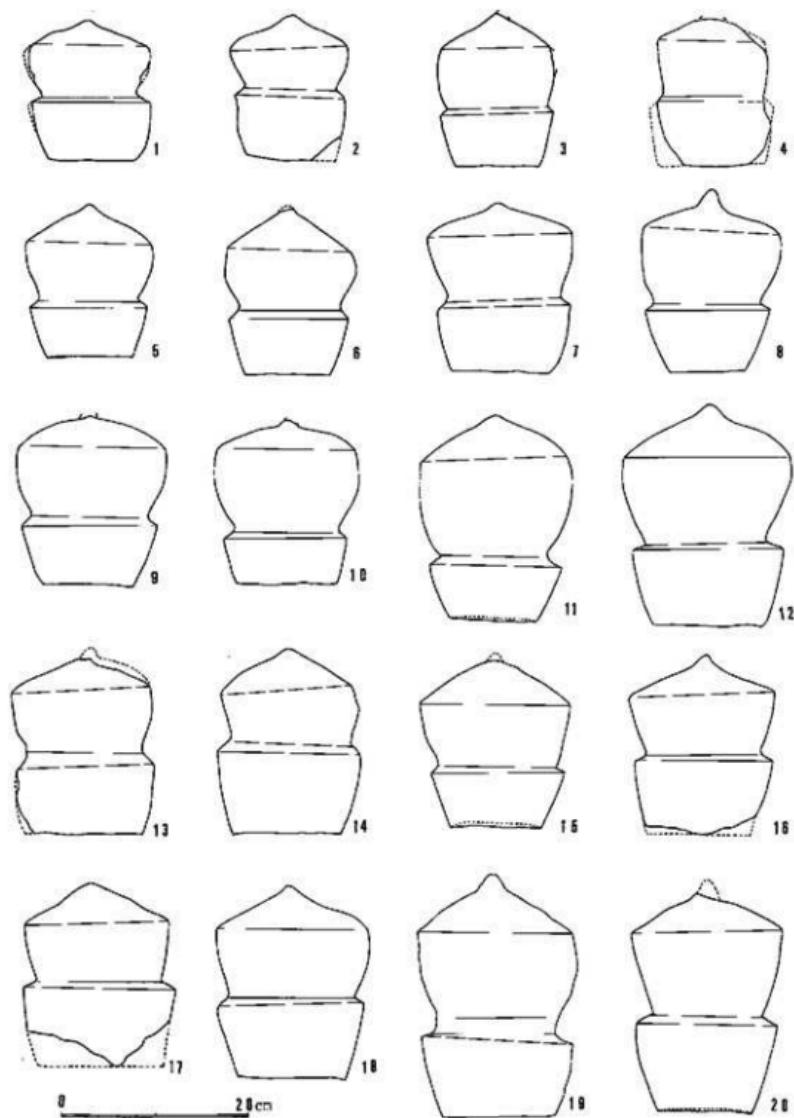
2 奈良時代

清水山古窯址では、麓切り後にナデ調整を行う坏が多い。このナデは、ミガキでもなくケズリでもなく、板状・箆状の工具を底面に対して鋭角あるいは平行にナデ動かして底部を平らに調整している例がみられた。

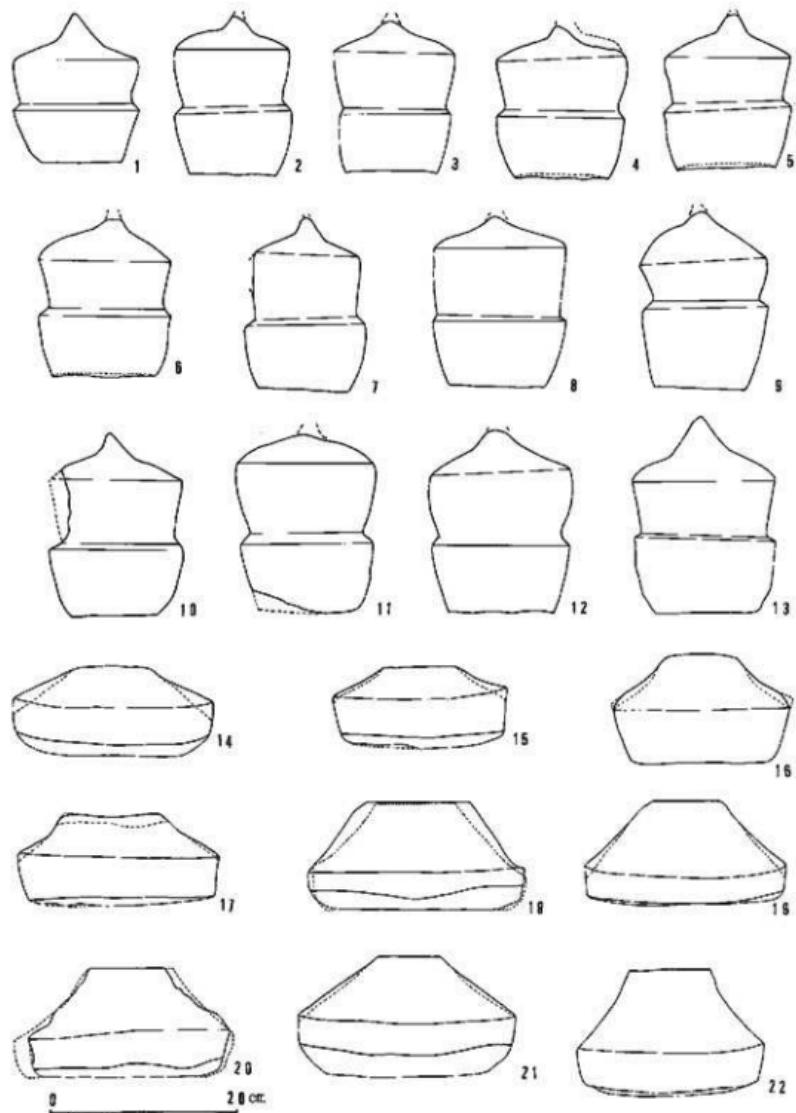
また清水山古窯址の灰原から出土した須恵器の特徴は、坏Aでは丸底のタイプといわゆる箱形



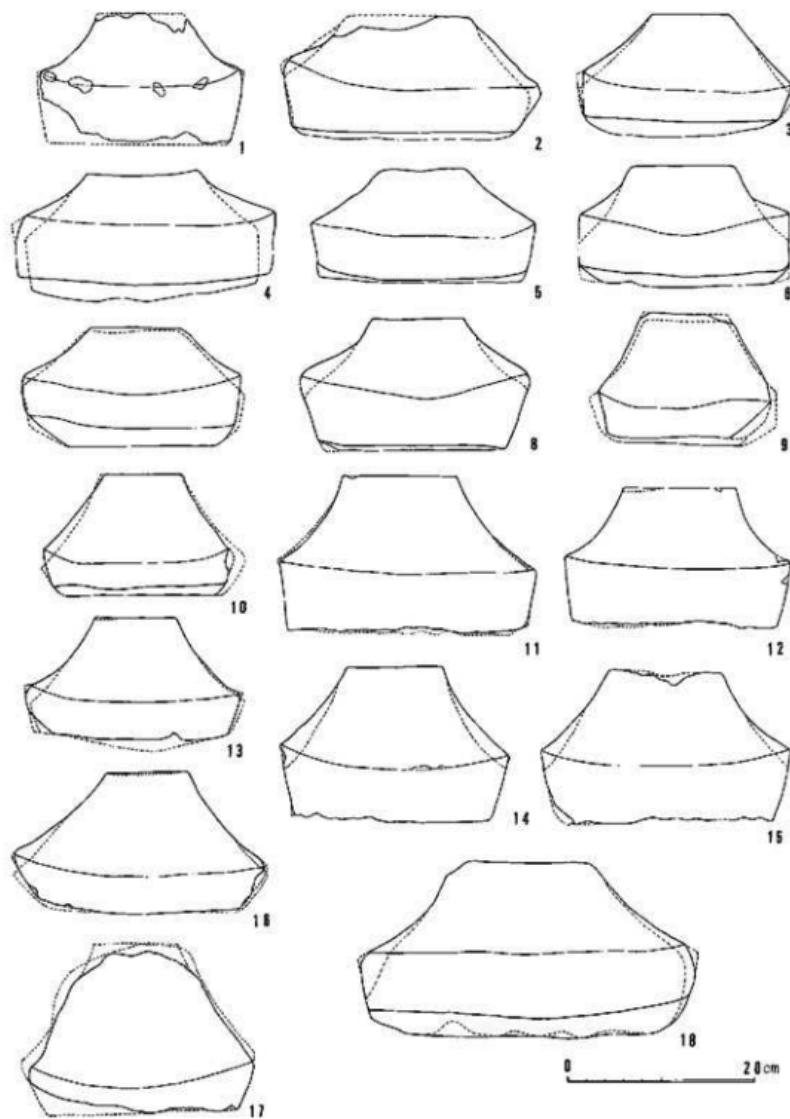
第32圖 潘水山第2地点出土遺物(7) S = $\frac{1}{8}$



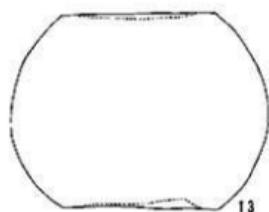
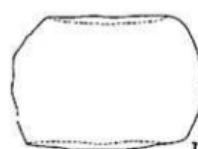
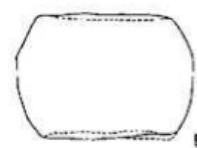
第33圖 清水山第2地點出土遺物(8) S = $\frac{1}{6}$



第34図 清水山第2地点出土遺物(9) S- $\frac{1}{8}$

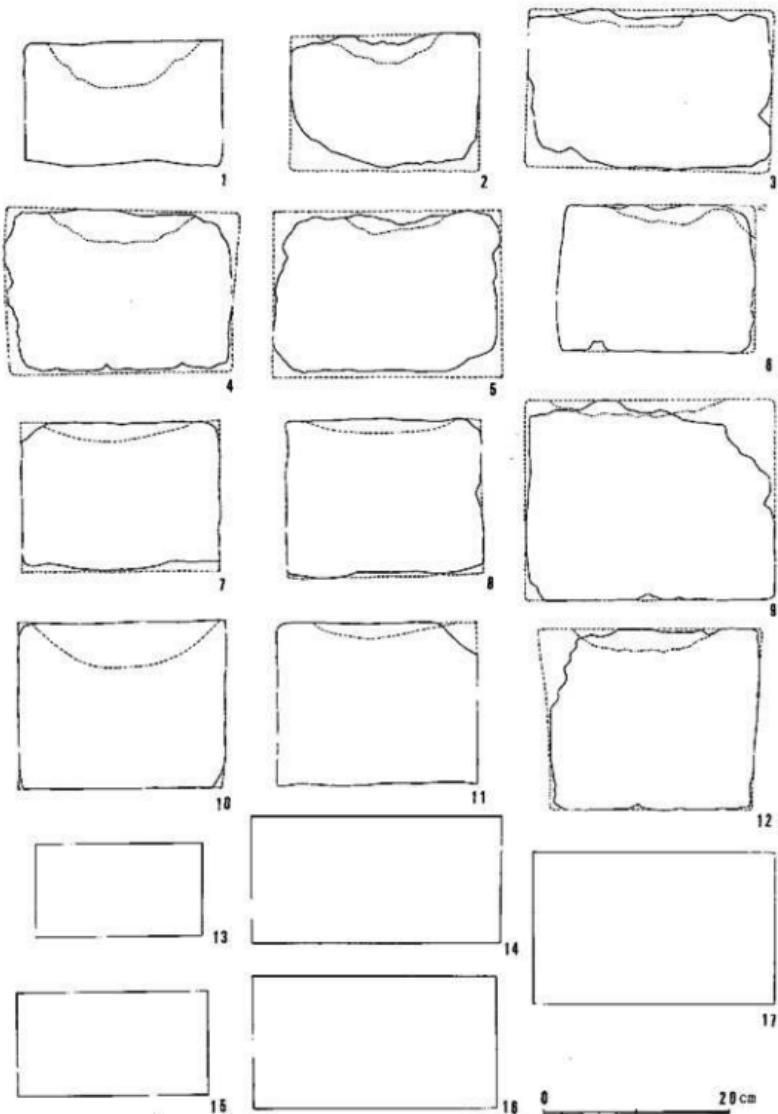


第35圖 清水山第2地點出土遺物(10) S-1/6



0 20cm

第36図 清水山第2地点出土遺物(11) S = $\frac{1}{6}$



第37図 清水山第2地点出土遺物(12) $S = \frac{1}{6}$ (13-17は模式図)

国販番号	登録番号	出土区	種 別	石 材	形態	時期	横(cm)	縦(cm)	高さ(cm)	備 考
	84		火輪	—	—					
	135	24	空風輪	安山岩	—					破片
	140	25	空風輪	安山岩	—					破片
	152	24	空風輪	—	—					
	170	24	空輪	安山岩	—					破片
	15	7	水輪	安山岩	—					ボロボロに風化
	81	15	水輪	安山岩	—					破片
	101	19	水輪	安山岩	—					破片
	180		水輪	安山岩	—					破片表様
	6	3	地輪	安山岩	ア	1	23.0	22.5	13.0	
	9	7	地輪	安山岩	イ	2	26.0	26.0	18.0	
	16	7	地輪	安山岩	エ	4	20.0	19.5	16.0	
	17	7	地輪	安山岩	ア	1	22.5	22.0	11.0	
	18	8	地輪	砂岩	イ	2	20.5	20.5	13.3	
	23	6	地輪	安山岩	ア	1	22.5	20.3	12.0	
	25	6	地輪	安山岩	イ	2	23.8	23.5	17.0	
	30	9	地輪	安山岩	イ	2	19.0	18.8	14.0	
	31	9	地輪	安山岩	イ	2	20.5	20.5	13.5	
	34	12	地輪	凝灰岩	—					ボロボロに風化
	36	12	地輪	安山岩	エ	4	22.4	22.5	18.7	
	39	11	地輪	安山岩	イ	2	22.5	20.5	13.5	
	41	11	地輪	安山岩	エ	4	20.0	20.0	17.5	
	46	13	地輪	安山岩	ウ	3	19.0	18.0	13.0	
	47	13	地輪	安山岩	エ	4	15.0	18.0	15.0	
	50	13	地輪	安山岩	ウ	3	17.8	18.0	13.3	
	51	13	地輪	安山岩	イ	2	20.5	19.5	13.5	
	55	11	地輪	安山岩	ウ	3	21.0	21.0	15.0	
	56	13	地輪	安山岩	ア	1	25.5	24.8	14.5	
	57	13	地輪	安山岩	イ	2	22.5	22.0	14.0	
	58	13	地輪	安山岩	イ	2				
	59	13	地輪	砂岩	イ	2	21.5	22.5	15.5	
	60	13	地輪	安山岩	エ	4	12.8	23.0	14.0	
	61	16	地輪	安山岩	ウ	3	22.7	23.0	17.0	
	62	16	地輪	安山岩	ウ	3	26.0	26.0	20.0	
	63	16	地輪	安山岩	エ	4	25.0	27.0	23.0	
	65	16	地輪	安山岩	ウ	3	21.0	24.5	19.5	
	67	16	地輪	安山岩	ウ	3	20.0	20.0	13.8	
	70	15	地輪	安山岩	ウ	3	22.0	22.2	15.0	
	73	15	地輪	安山岩	ウ	3	21.8	21.0	15.5	
	75	15	地輪	安山岩	イ	2	21.8	21.5	13.0	
	79	15	地輪	安山岩	ア	1	26.5	25.9	15.3	
	92	20	地輪	安山岩	イ	2	21.5	21.3	14.3	
	98	22	地輪	安山岩	エ	4	23.0	22.0	17.0	
	100	20	地輪	安山岩	ウ	2	28.5	31.0	22.0	
	105	18	地輪	安山岩	ウ	3	19.0	18.0	14.5	
	107	18	地輪	安山岩	イ	2	23.8	23.8	14.7	

第13表 五輪塔属性(1)

直面番号	登録番号	出土区	種別	石材	形態	時期	横(cm)	縦(cm)	高さ(cm)	備考
	109	18	地輪	安山岩	イ	2	28.5	29.0	19.5	
	111	18	地輪	安山岩	ウ	3	25.5	24.5	16.0	
	112	18	地輪	安山岩	イ	2	25.0	26.0	18.0	
	114	18	地輪	安山岩	イ	2	23.0	23.5	14.0	
	118	18	地輪	安山岩	イ	2	21.5	22.0	15.5	
	119	18	地輪	安山岩	イ	2	22.8	21.5	16.0	
	122	18	地輪	安山岩	エ	4	21.5	21.5	19.0	
	126	18	地輪	安山岩	ウ	3	25.0	24.8	20.3	
	127	18	地輪	安山岩	イ	2	23.0	24.0	16.5	
	128	18	地輪	安山岩	ア	1	32.8	32.5	17.5	
	132		地輪	—	—	—	—	—	—	表紙、風化破片
	134	5	地輪	安山岩	イ	2	21.5	21.0	13.5	
	141	25	地輪	安山岩	ウ	3	24.8	23.8	19.0	
	143	25	地輪	凝灰岩	—	—	—	—	—	
	146	25	地輪	安山岩	ア	1	20.5	19.5	10.5	
	149	25	地輪	安山岩	エ	4	22.0	21.5	19.5	
	150	26	地輪	安山岩	エ	2	27.0	27.0	19.5	
	153	24	地輪	安山岩	イ	2	26.0	25.5	17.0	
	155	27	地輪	安山岩	イ	2	22.0	21.0	14.0	
	162	8	地輪	安山岩	エ	4	20.0	19.0	16.0	
	163	8	地輪	砂岩	ウ	3	20.0	19.0	15.0	
	164		地輪	安山岩	エ	4	24.0	24.5	20.0	表紙
	166		地輪	安山岩	ウ	3	20.5	20.7	14.3	表紙
	169	20	地輪	安山岩	ウ	3	24.5	23.0	17.0	
32-1	13	7	空風輪	安山岩	ア	1	14.3	13.3	17.5	
32-2	131		空風輪	安山岩	ウ	3	12.5	13.9	16.2	表紙
32-3	77	15	空風輪	安山岩	イ	2	14.3	12.9	19.4	
32-4	103	18	空風輪	安山岩	イ	2	15.2	13.6	18.6	
32-5	165	15	空風輪	安山岩	イ	2	16.4	14.1	19.6	
32-6	40	11	空風輪	安山岩	イ	2	16.3	14.6	20.9	
32-7	154	26	空風輪	安山岩	イ	2	15.9	14.0	20.6	
32-8	196	18	空風輪	安山岩	イ	2	18.1	15.8	24.9	
32-9	45	11	空風輪	安山岩	ウ	3	12.3	12.7	17.4	
32-10	20	8	空風輪	安山岩	ウ	3	12.9	11.7	17.0	
32-11	102	18	空風輪	安山岩	ウ	3	15.3	14.9	21.2	
32-12	26	6	空風輪	安山岩	ウ	3	17.5	14.6	21.9	
32-13	52	11	空風輪	安山岩	ウ	3	15.3	13.1	19.4	
32-14	144	25	空風輪	安山岩	エ	3	12.1	12.6	16.5	
32-15	183		空風輪	安山岩	エ	3	12.4	13.2	17.9	
32-16	89	15	空風輪	安山岩	エ	3	12.3	13.2	18.8	
32-17	37	12	空風輪	安山岩	エ	3	13.3	13.2	18.4	
32-18	85	15	空風輪	安山岩	エ	3	12.6	14.3	20.9	
32-19	181		空風輪	安山岩	エ	3	14.7	14.5	19.0	表紙
32-20	7	15	空風輪	安山岩	エ	3	13.9	13.7	16.8	
33-1	93	15	空風輪	安山岩	オ	4	12.7	12.6	14.8	
33-2	76	15	空風輪	安山岩	オ	4	12.6	11.6	11.5	
33-3	66	16	空風輪	安山岩	オ	4	12.4	12.1	16.2	
33-4	184		空風輪	安山岩	オ	4	11.5	11.3	15.8	表紙

第14表 五輪塔属性(2)

通版番号	登録番号	出土区	種別	石材	形態	時期	横(cm)	縦(cm)	高さ(cm)	備考
33- 5	159	27	空風輪	安山岩	才	4	13.5	12.5	16.1	
33- 6	5	3	空風輪	安山岩	才	4	13.8	12.7	17.5	
33- 7	19	8	空風輪	安山岩	才	4	15.4	14.1	17.9	
33- 8	27	6	空風輪	安山岩	才	4	14.4	13.2	19.4	
33- 9	21	6	空風輪	安山岩	才	4	15.5	14.3	18.9	
33-10	138	23	空風輪	安山岩	才	4	14.6	13.1	17.4	
33-11	125	18	空風輪	安山岩	才	4	16.1	14.1	21.8	
33-12	113	18	空風輪	安山岩	才	4	17.6	16.0	23.5	
33-13	38	11	空風輪	安山岩	才	4	14.9	14.6	18.6	
33-14	83	15	空風輪	安山岩	才	4	14.3	15.1	19.6	
33-15	14	7	空風輪	安山岩	才	4	16.1	14.3	17.4	
33-16	110	18	空風輪	安山岩	才	4	15.5	14.6	19.0	
33-17	33	17	空風輪	安山岩	才	4	15.3	16.1	18.4	
33-18	48	11	空風輪	安山岩	才	4	16.2	15.6	20.3	
33-19	156	27	空風輪	安山岩	才	4	16.9	15.3	25.7	
33-20	78	15	空風輪	安山岩	才	4	16.0	14.9	23.1	
34- 1	74	14	空風輪	安山岩	才	4	13.3	13.4	15.9	
34- 2	94	15	空風輪	安山岩	才	4	12.2	12.4	16.7	
34- 3	10	7	空風輪	安山岩	才	4	12.9	11.7	15.9	
34- 4	120	18	空風輪	安山岩	才	4	13.9	13.6	16.1	
34- 5	158	27	空風輪	安山岩	才	4	14.2	13.4	16.1	
34- 6	12	7	空風輪	安山岩	才	4	14.2	14.0	16.9	
34- 7	7	7	空風輪	安山岩	才	4	15.1	14.6	20.9	
34- 8	182		空風輪	安山岩	才	4	10.4	12.9	18.2	
34- 9	80	15	空風輪	安山岩	才	4	14.0	14.2	18.0	
34- 10	90	15	空風輪	安山岩	才	4	13.4	13.1	18.7	
34-10	151		空風輪	安山岩	才	4	12.5	14.3	19.5	
34-11	44	13	空風輪	安山岩	才	4	14.3	14.1	18.5	
34-12	69	15	空風輪	安山岩	才	4	15.4	14.7	19.2	
34-13	104	18	火輪	安山岩	才	1	21.2		9.4	
34-14	54	13	火輪	安山岩	工	3	18.6		8.7	
34-15	176		火輪	安山岩	工	3	18.7		11.6	
34-16	96	15	火輪	安山岩	工	3	21.4		8.7	
34-17	137	24	火輪	安山岩	才	2	23.0		11.5	
34-18	174		火輪	安山岩	才	2	21.5		11.0	
34-19	142		火輪	安山岩	才	2	21.2		10.5	
34-20	139	25	火輪	安山岩	才	2	23.4		12.8	
34-21	167		火輪	安山岩	才	2	19.7		13.2	
35- 1	177		火輪	安山岩	才	3	11.1		14.0	
35- 2	86	15	火輪	安山岩	才	3	27.3		13.2	
35- 3	87	15	火輪	安山岩	才	3	22.3		13.1	
35- 4	115	18	火輪	安山岩	才	3	26.2		13.5	
35- 5	130	21	火輪	安山岩	才	3	23.7		11.8	
35- 6	53	13	火輪	安山岩	才	3	22.3		13.1	
35- 7	49	13	火輪	安山岩	才	3	23.0		12.6	
35- 8	116	18	火輪	安山岩	才	3	24.2		14.1	
35- 9	72	15	火輪	安山岩	工	3	18.3		13.9	
35-10	129	21	火輪	安山岩	工	3	19.7		12.9	

第15表 五輪塔属性(3)

器物番号	登録番号	出土区	種別	石	形態	時期	横(cm)	縦(cm)	高さ(cm)	備考
35-11	108	18	火輪	安山岩	イ	2	27.3		17.0	
35-12	88	15	火輪	安山岩	イ	2	24.0		15.0	
35-13	148	25	火輪	安山岩	エ	3	21.9		14.3	
35-14	43	11	火輪	安山岩	エ	3	24.3		16.7	
35-15	133	5	火輪	安山岩	エ	3	26.5		16.7	
35-16	32	17	火輪	安山岩	エ	3	26.7		15.0	
35-17	121	18	火輪	安山岩	エ	3	23.5		18.2	
35-18	171		火輪	安山岩	ウ	3	34.6		18.3	表採
36-1	68	15	水輪	安山岩			19.5		11.6	
36-2	168		水輪	安山岩			19.7		13.0	
36-3	178		水輪	安山岩			18.8		14.7	表採
36-4	136	24	水輪	安山岩			18.8		14.7	
36-5	179		水輪	安山岩			18.6		13.3	裏採
36-6	22	6	水輪	安山岩			21.8		13.8	
36-7	99	20	水輪	安山岩			20.0		14.2	
36-8	2	2	水輪	安山岩			21.9		14.5	
36-9	24	6	水輪	安山岩			22.2		15.0	
36-10	124	18	水輪	安山岩			23.1		15.6	
36-11	82	15	水輪	安山岩			24.3		15.3	
36-12	97	20	水輪	安山岩			24.5		16.4	
36-13	157	27	水輪	安山岩			27.4		21.0	
36-14	145	25	地輪	安山岩	イ	2	28.0	26.5	20.3	円みあり
37-1	160		地輪	安山岩	イ	2	21.1	20.4	13.5	表採、瓦あり
37-2	29	8	地輪	安山岩	イ	2	20.0	20.5	14.7	四あり
37-3	8	11	地輪	安山岩	イ	2	25.8	25.5	17.2	四あり
37-4	96	15	地輪	安山岩	イ	2	24.0	25.0	17.5	四あり
37-5	64	16	地輪	安山岩	イ	2	24.1	24.5	17.7	四あり
37-6	42	11	地輪	安山岩	ウ	3	21.0	19.3	15.6	四あり
37-7	35	12	地輪	安山岩	ウ	3	21.0	22.5	16.0	四あり
37-8	117	18	地輪	安山岩	ウ	3	20.8	19.4	16.5	四あり
37-9	161	8	地輪	安山岩	ウ	3	26.5	24.7	21.1	四あり
37-10	91	15	地輪	安山岩	エ	4	21.2	21.5	17.8	四あり
37-11	11	7	地輪	安山岩	エ	4	20.1	21.5	17.4	四あり
37-12	123	18	地輪	安山岩	エ	4	23.7	23.5	19.4	四あり
37-13	28	8	地輪	安山岩	イ	2	17.8	16.0	10.0	四あり
37-14	4	3	地輪	安山岩	ア	1	26.5	26.5	13.5	
37-15	3	3	地輪	安山岩	ア	1	22.5	19.5	11.0	
37-16	147	25	地輪	凝灰岩	ア	1	26.0	20.0	14.0	
37-17	1	2	地輪	安山岩	イ	2	26.0	24.5	16.2	

第16表 五輪塔属性(4)

のタイプとその中間のタイプがみられ、中間タイプが環Aのほとんどを占めている。环蓋は返しがなく天井部と口縁の立ち上がり部の接点の腹がはっきりするものが多くみられる。30cmを越える人形の高台付き盤がみられる等、8世紀後半(1988年 笹沢浩)の特徴を示していると思われる。大量の破片が出土しているものの灰原のこともあり、接合・分析に要した時間数が少ないためもあり、器形のはっきりするものが少なかった。

清水山古窯跡群は、今回の調査で灰原の広がりを調査できたが、詳細は長野県埋蔵文化財センターの調査報告を待ちたい。

3 中世

集団墓群が清水山の南斜面から検出された。斜面中腹以上に帯状（幅2～3m）やある程度の大きさに段切りがなされ、墓が構築される。五輪塔、集石、配石によるものなど、墓の形態は様々であった。また、同一カ所に次々に埋葬が行われているために、一つの墓（一人分）を単位として把握することは困難であった。いくつかの形態を含んでいるが、複数の墓がまとまりをもって群を形成している。これを便宜的に区画と呼称しているが、この区画が26以上確認された。また、五輪塔の地輪は79基、集石や配石墓の下部に検出される焼骨の埋葬されたピットは226、骨壺器は7、地輪の凹部に焼骨が認められるもの13基がある。また、複数人の焼骨が埋葬されたと考えられる土壇があり、それを考慮すると、調査区全体では少なくとも240体を越える埋葬が行われていたと考えられる。

骨壺器に使用されていた珠洲系陶器は安岡編年第III～V期にその製作年代が求められる。板碑は紀年銘がないためはっきりしないが、長野市周辺の類例から14世紀前半の年代を与えることができよう。したがって、集団墓の成立期の上限は13世紀、下限については明確でないが近世以降の遺物は確認できないことから、近世までは継続しなかったと考える。その中心期は14世紀から15世紀と考えたい。

骨壺器や五輪塔の凹に埋葬された例はいうまでもなく一つの墓である。これ以外のものは焼骨を埋葬した上に集石や配石が構築され一つの墓になっていたと考えられる。しかし、埋葬の度に五輪塔や集石などが新たに加えられると同時に古い墓は攪乱された。やがて、こうした新たな埋葬時に河原石や古い五輪塔をもちいて区画を設け、複数の墓が区画内に並存する形態になったと思われる。

区画は斜面上方向に開くコの字形で横幅3m、奥行き2～3mほどあり、小石が前面部に敷き詰められ、複数の五輪塔や集石が配置されている。区画の背面は段切りの斜面となる。段切り斜面との境には止止めようと思われる配石が認められる例もある。おそらく、区画は前面からみると段切りの斜面を背後に段状な高まりを持っていたものであろう。

また、区画の下部や近接して、火葬した土壇が認められた。これらの上部には集石が認められた。火葬土壇は径50～100cmの円形に近く、深さは10～70cmとまちまちであったが、径の大きなものはどの浅い傾向にある。周囲を石で囲むもの、底部に石が敷き詰められるもの、土壇底部に細い溝が認められるものなどがある。

遺体はいったん、墓に近い上層で火葬され、遺骨が拾い集められて、五輪塔や集石の下部に埋設されている。骨壺器や地輪の凹に埋葬された以外はピットや上層に埋設されているが、これらは有機質の袋や木製の容器（鉄釘の出土から）に納められていたものと思われる。

埋葬されたものと思われる古錢が出土している。いわゆる六文銭の風習につながるものではなかろうか。また、区画や集石には河原石が用いられている。これらは近くではなく、河原から採集する必要がある。民俗例で知られるように、丸石に籠力があると考えられていたことを示して

いるのではなかろうか。

区画には複数の遺体が埋葬されていることは先に述べたが、これは一定に場が常に埋葬される区域として意識され、継続されていたことを示している。今回の調査では26カ所のこうした区画が認められる。同一区画に埋葬された人々の関係が問題になろう。考古学的にはこれらの人々の関係を知ることができなかったが、同一地点が常に意識され、しかも区画されていることから、何らかの関係を認めざる得ないと考える。これらが、中世社会のどのような単位集団を表象しているか、興味深い。同時に、こうした単位から構成される集団墓を形成した集団がどのようなものであったか、今後の課題である。

最後に、板碑の出土状況にふれておきたい。板碑は隣接する五輪塔の間に、直立して検出された。五輪塔との関係は不明瞭であるが、五輪塔と並立していたのではなかろうか。並立する五輪塔と板碑の下部には火葬土壇と複数の遺体が埋葬されたと思われる土壇がある。

引用文献

- | | | | |
|------|----------|----------|----------------------|
| 1988 | 笠沢浩 | 古代の土器 | 『長野県史』考古資料編第1巻(4) |
| 1989 | 吉岡康暢 | 第1部珠洲の名陶 | 『珠洲の陶器』珠洲焼資料館 |
| 1993 | 鶴田典昭他 | 『清水山古窯跡』 | 長野県埋蔵文化財センター年報1992年度 |
| 1993 | 中野市教育委員会 | 「沢川鍋土遺跡」 | |

第6節 結語

清水山古窯跡遺跡から中世の集団墓域が検出されたことは予想外であった。市内では数例の中世墓の調査例はあるが、今回の調査のように、広い範囲を調査した事例はない。おそらく、県下にも例がなく、全国的に見ても希な例の一つではなかろうか。近年、中世遺跡の発掘調査が盛んに行われ、中世史研究に大きな貢献をはたしている。ここに報告する調査事例もこうした研究に寄与できれば幸いである。

今回の調査で清水山における中世集団墓のあり方を十二分に究明できたとするには、はなはだ心許ない。しかし、集団墓のはば全体の八割を調査し、その内容を十分とはいえないが明らかにし得たことは大きな成果であった。分析をとおして、この集団墓は幾つかのグループに分けられること、240以上遺体が埋葬されたこと、中世全般をとおして継続されたことなどが明らかにされた。こうした集団墓を形成した人々はどこに住み、どの様な階層の人々であったのか。なぜ、いくつかのグループに分けられるのか。まだまだ解決しなければならない多くの課題が山積みされている。しかし、今回の調査成果をさらに分析し、周辺地域の中世遺跡の調査結果を集積する

ことにより、本地域における中世が明らかにされる可能性があると考えて良いであろう。

中野市は本遺跡をはじめ高梨氏館跡等、多くの中世遺跡が確認されている。これらの遺跡を丹念に調査を重ねることにより、中野市の歴史に新たな一頁を書き加えることができるのではなかろうか。調査に加わった一員として、本報告書が活用され、そうした研究の一助と成れば幸いである。

最後に、本調査をすすめるにあたり、陰に日向にご協力いただいた多くの皆様にあつく御礼申し上げる。また、国学院大学教授千々和到氏、長野市立博物館学芸員小山丈夫氏には、板碑や五輪塔をはじめ多くの点についてご教示いただいた。珠洲系陶器については、石川県埋蔵文化財センターの垣内光次郎氏よりご教示をいただいた。あつく御礼を申し上げます。

1. 清水山第1地点
遠景
(北方向より)



1

2. 清水山第1地点
SK 3 断面
(北方向より)



2

3. 清水山第1地点
SK 4 断面
(北方向より)



3



1. 清水山第1地点
SK 4出土状況
(西方向より)

1



2. 清水山第1地点
D 4灰原出土状況

2



3. 清水山第1地点
通称すり鉢出土状況

3

1. 清水山第2地点
遠景
(南西方向より)



1

2. 清水山第2地点
作業風景
(南方向より)



2

3. 清水山第2地点
第3区墓域
出土状況



3



1. 清水山第2地点
第3区墓域
下部施設
(SK 1~SK 3)

1



2. 清水山第2地点
第7区墓域
出土状況
(西方向より)

2



3. 清水山第2地点
第7区墓域
SK 5検出状況

3

1. 清水山第2地点
第5区墓域
出土状况



P L 5

2. 清水山第2地点
斜面中腹遺物
出土状况
(東方向より)



1

3. 清水山第2地点
第16区墓域
骨蔵器出土状况



2

3



1. 清水山第2地点
第17区墓域
骨藏器出土状况



2. 清水山第2地点
第12区墓域
出土状况



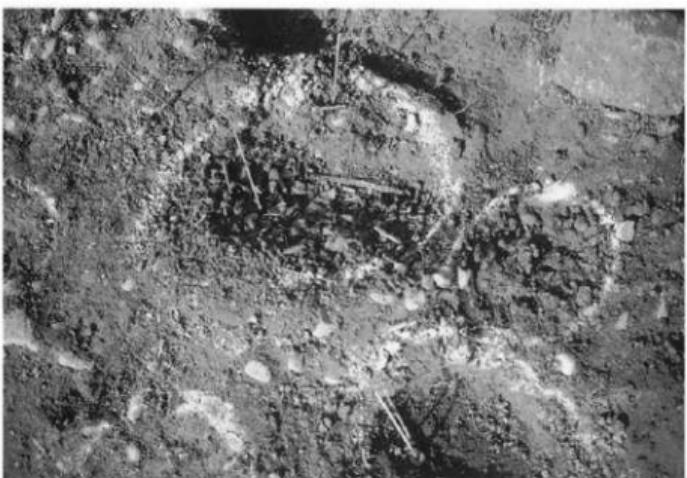
3. 清水山第2地点
第15区墓域
片口鉢出土状况

1. 清水山第2地点
第18区墓域
出土状况



1

2. 清水山第2地点
第18区墓域
刀子、火葬骨
出土状况
(ビット146)



2

3. 清水山第2地点
第9区墓域
出土状况



3

1. 清水山第2地点
第25区墓域
下部施設
(SK25)

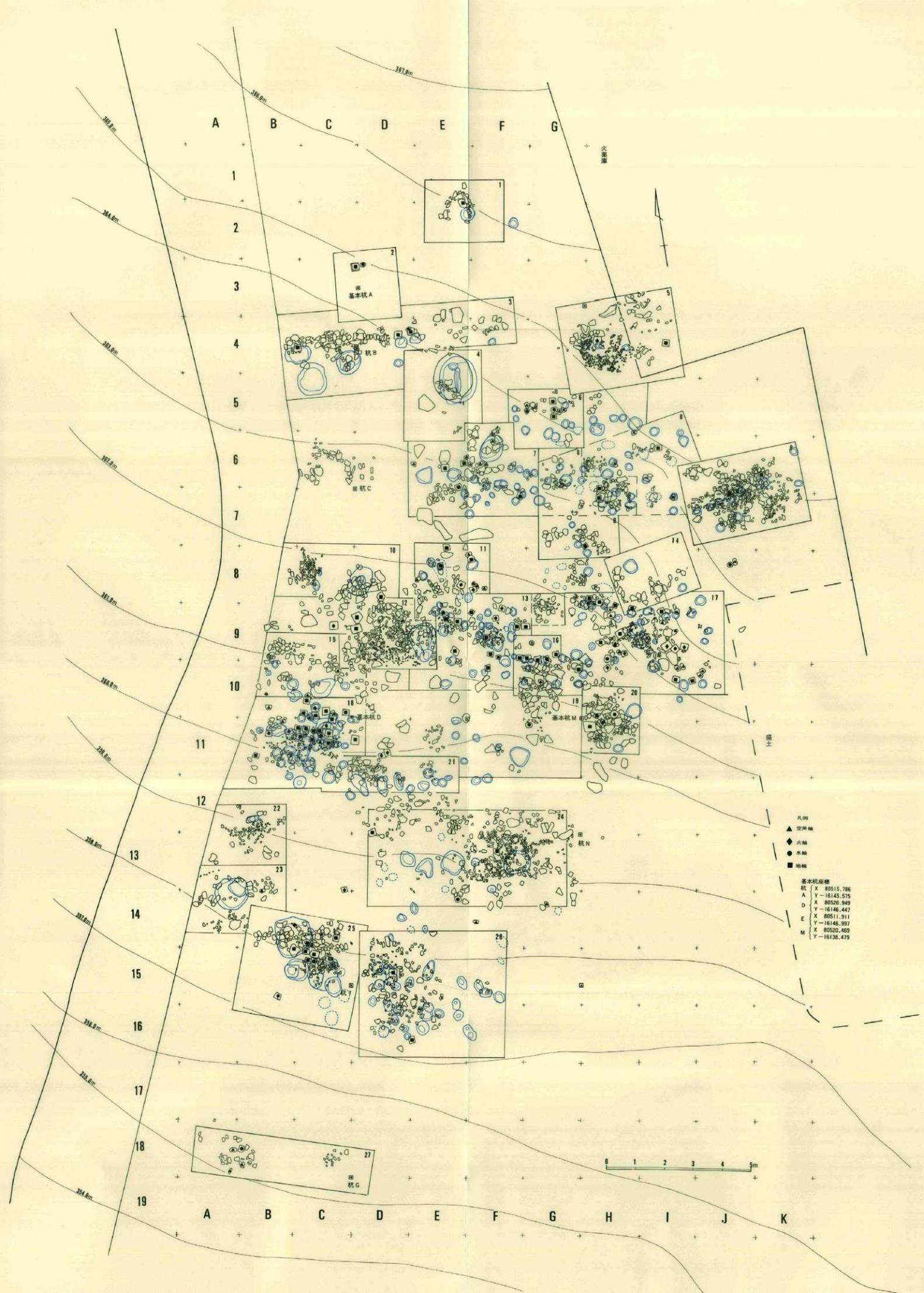


1

2. 清水山第2地点
上方第25区墓域
下方第26区墓域
骨藏器出土状况
(東方向より)



2



清水山古窯跡

(古窯址群) (中野轟社群)

発掘調査報告書

平成6年3月25日 印刷

平成6年3月31日 発行

編集 中野市教育委員会

発行 中野市三好町1-3-19

印刷 萬友印刷株式会社

